

『大島町』

平成29年2月15日（水）

13時00分～13時17分

○行政部長 それでは冒頭、知事からご挨拶申し上げます。

○都知事 座ったままで恐縮でございます。遠方からご足労いただきましてありがとうございます。また先日は大変お世話になりました、ありがとうございます。椿まつりも盛大に開かれて、そしてまた雄大な三原山の風景など、存分に楽しませていただきました。町の皆様方にも元気を届けられたかなと、このように思っております。

今日は、島の現状について、そしてまた課題、さらには都へのご要望など、防災対策、観光政策など、多岐にわたるかと思えますけれども、直接、町長から伺わせていただきたいと思えます。

情報公開の観点からネットで中継いたしておりますので、ご了承ください。よろしくお願ひします。

○行政部長 それでは、三辻町長、ご発言をお願いいたします。

○大島町長 まずは、こんにちは。大島町長の三辻でございます。いつもお世話になります。よろしくお願ひします。本日はお忙しいところ、このような時間を設けていただきまして感謝申し上げます。

まず、小池知事におきましては、公務多忙の折、1月29日の椿まつりオープニングに参加していただき、また、25年の土砂災害の現地も視察していただくなど、厚く御礼申し上げます。島民一同、感激して喜んでいるところです。

時間もないので、本題に入らせてもらいます。

私が今、最優先で取り組んでいますのは、やはり平成25年伊豆大島土砂災害の復旧・復興事業であります。平成26年に策定しました大島町復興計画、これは35年度までの10カ年計画の計画なんですけど、これが28年度をもって前期が終了し、29年度から31年度まで新たなステージとなる中期に入ります。これまでは被害を受けたものを元に戻す、いわゆる復旧がメインでしたが、これからは新しい大島をつくる、創造的、発展的な復興にシフトしていくこととなります。小池知事にも視察していただきましたが、被災した神達・丸塚地域を人々が集う憩いの場、あと鎮魂の場として復活させ、大島町のさらなる発展につなげ、次の世代に引き継いでいかなければなりません。

そのため、今現在計画してる事業は、まず、伊豆大島土砂災害対策検討委員会というの
がありまして、まず、この報告内容を踏まえてのメモリアル公園の建設、あと、かねてか
ら建て替え計画があった図書館、保育園の建設、人々が集う場として地域センター、あと
多目的屋内運動場の建設を予定しております。一部、平成28年度から着手しまして、最
最終的には32年度をもって完了するスケジュールで今、進めています。

計画事業費は総額で約59億円となり、中には国や東京都の補助金の対象となる事業も
ありますが、それでも補助金を除いた町の負担金は約47億円となります。あと、大島町
の現在の一般会計の予算規模は約100億円ですけど、土砂災害の復旧・復興経費、これ
を除いた通常ベースになりますと大体70億から80億円ぐらいです。このような財政状
況ですので、この事業をなし遂げるためには、どうしてもやっぱり東京都の財政援助に頼
るところが大であり、そのため、災害復旧・復興特別交付金の充実、あと市町村総合交付
金の拡充、これに頼らざるを得ませんので、特段のご配慮をお願い申し上げます。

なお、私は、この土砂災害復旧・復興事業、これをなし遂げるために町長になりました
ので、これがまず最優先課題です。まだまだ町にはさまざまな課題がありまして、産業振
興対策、あと人口減少に伴う少子高齢化対策、あと再エネルギーの導入、再生エネルギー
ですね、あとキョンの駆除と、このようなものまで挙げられます。

私からは、簡単ですけど以上です。よろしく申し上げます。

○行政部長 どうもありがとうございました。

それでは、知事から、お願いいたします。

○都知事 まず冒頭に、災害復旧・復興特別交付金の充実と、市町村総合交付金の拡充と
いうご要望をいただきました。これまでは復興に関しまして、東京都災害復旧・復興特別
交付金で、28年度まで、累計で38億を超えていたかと思いますが、29年度の予算額
で1年で10億円をつけております。これはひとえに大島町の復旧・復興を早期に進めて
いくということで、都として復旧事業の実施、それから、町で行われる事業への災害復
旧・復興特別交付金によります財政支援をきめ細かく行ってきたところですが、引き続き、
これについては町と連携、協力して進めていきたいと考えております。町長としてのお役
がしっかり果たせるように、そういった手当てをさせていただくということが1点。

それから、観光の振興についても、これは復興と車の両輪につながるかと思えますけれ
ども、来島者の増加を図るための事業を新設をさせていただきます。島しょ部においては
宝島プロジェクトという形で、それぞれ持っている宝物をもう一度見出す、もしくは既に

あるものをさらに磨きをかけるといったようなもので、それが伊豆大島の観光振興に、復興につながるように、そういった支援をしていきたいと考えております。

それから、再エネの件とキョン対策ですね、キョン対策については、これまたやはり自然を守るという意味と、特定外来生物の対策ということについては、これまでも私自身も色々知見がございますので、それを活かしていきたいと思っております。

それから、総合交付金でございますけれども、地域の発展を支えるということで、自らの自主的、自立的な取り組みと、そして都の適切な財政支援、これがまさしく車の両輪となって機能するということが大切だと認識しております。これからも、地域の実情を踏まえた効果的な支援ができるように努めてまいりたいと思っております。現場の声を、いつもしっかりと耳を傾けながら進めていきたいと考えております。

○行政部長 時間がございますので、忌憚のないご意見をお願いします。

○大島町長 まず、観光の関係なんですけど、土砂災害以降、東京都の宿泊助成や交通費助成、そういう手厚い支援のおかげで、昨年、暦年なんですけど、約23万人の来島者がありました。これは平成19年が確か23万3,000か4,000人ぐらいで、それに次ぐものです。やはり多分に宿泊助成と、その影響はかなり大きいと思いますので、あと災害復旧・復興事業による職人さんの来島。正直、観光振興については、平成29年、これが本当に真価を問われるときかなと思っておりますので、町としても。ちょっと余談になりますが、ゴジラアイランド計画というのがありましたけど、これはゴジラ、怪獣の、色々なことがありまして、これは断念したんですけど、また、それにかわる何かの観光振興策というのを今考えていますので、また手厚い支援等をお願いします。

それと、あと宝島。宝物というんですか、島の。意外と島に住んでいると分からない、見えないところってあるんですよね。よその方の目から見て、大島はどういう宝物があるか、そういうのをまた再認識してもらえればなと思っております。

よく、まちづくりをするに当たっては、よそ者、ばか者、若者の意見を聞くと、そういう言葉もありますので、もうちょっと、またそういう外からの視点というのかな、そういうのを大事にしたいと思っておりますので、よろしくをお願いします。

あと、キョンにつきましては、やはり今、大体1万頭を超えると推定されてますけど、やっぱり10%、15%ぐらいで年々増えていきますので、どうしてもやっぱり数年かけて集中的にやらないと効果がないと思っておりますので、その辺の施策についてもよろしくをお願いします。

私からは、あと再生エネルギー。28年度、小学校、中学校、太陽光でやったんですけど、これから、29年度以降も、四、五年かけて、小中学校、避難所、全てやるつもりでいたんですよ。そうしたら東京電力の、簡単に言いますと受け入れのキャパがもうない。それで、ちょっと今は断念してるところですけど、その辺の支援等もお願いできればと思っています。

大島は、島はどこもそうですけど、再生エネルギーの宝庫だと思うんですよね。風力発電の実証実験をやったのは、日本で初めてやったのは大島ですので、そういうことからいっても、この辺もちょっと、色々今、考えているんですけど、これの支援等もよろしくお願いします。

○都知事 ありがとうございます。

私も大島に伺いまして、そして山を抱く、見晴らしのいいところに伺いましたけれども、島全体が何か昭和の香りが漂って、何とも言えない思いといいましょうか、懐かしい思いを抱くと同時に、やはり例えばインバウンドのお客様を引っ張ってくる、何かの工夫が必要かなと思うんですね。「アンコ椿は」という歌も、私はよくわかるんですけど、多分若い人は知らないと思いますので、何かそういった新しい、若い層を呼んでくるという工夫が必要。

それから、キョン対策については、かつてマングース対策というのを奄美大島でやりました。これと同じ方法というか、わな、草食系なので、キョンが、いわゆる餌でおびき寄せるとするのはちょっと無理なんですけれど、またその辺は一番いい、効果的な方法を考えて、そして、椿が荒らされないように、農作物が荒らされないようにしていきたいと思っています。今、人口が7,884人というのが最新の数字だと聞いておりますけれども、人間よりもキョンのほうが多いと。さらに毎年10%増えるというのは、これはやっぱり大きな問題だと思いますので、キョン対策はぜひ私も力を入れてやりたいと思っております。

再生エネルギーについては、これも本当に島は宝庫なんですよ、エネルギーの。そこをどう対処していくかという。蓄電ということもあるでしょうし、もっと地産地消を、蓄電することによって可能として。この再生エネルギーは基本的に、いざといったときの防災対策にも本来なり得るものです。台風などで風力発電の羽根が飛んじやうとか、色々ありますけど、各国はやっているわけで、つくっているのが日本の企業だったりするので、各国で使われているものが、日本だけだめだということはないと私は思っておりますので、そういったことも島の共通課題として取り組んでいきたいと思っております。

○行政部長 町長、いかがでしょうか。

○大島町長 まず、インバウンド。大島は東京都で初めてのジオパークというところに認定されてますので、2010年に認定されたんですけど、これを今、拡充していこうということで、東京都で初めてかな、地域おこし協力隊でジオパークの専門員、そういうのも雇用しましたし。

この間、知事は三原山で。

○都知事 現場でお会いしましたね。とても素敵な。

○大島町長 ああいう外からの方の目も大事にしていますので。

あと、どうしても再生エネルギー、どうしても大島は災害が多いです。今、私たちが心配しているのが三原山噴火。これは、全島避難した噴火から、去年でちょうど30年たったんですよ。明治以降の歴史を見ますと、30数年で中規模噴火を繰り返していますので、もうそろそろ真剣に、その備えも今しなければということで。やっぱり再生エネルギー、蓄電施設も安くなったんですけど、どうしても災害時、避難して、停電はどうしてもあるんですよね。そのときにやはり混乱しないように、これは条件が整えば年次計画でぜひ進めていきたいと思っておりますので、よろしくをお願いします。

○行政部長 よろしゅうございますか。

○大島町長 私のほうは、もう。まずは、一に、やはり災害の復旧・復興。産業振興。ただ、農業・漁業の振興を図るには、農業・漁業はどうしても時間がかかりますので、まず経済成長、短期間に経済成長するには観光振興、これが有効なんです。うちのほうも。まずは観光振興しながら、農業・漁業を一步一步前進させて、そういうことを考えてますので。

どうしても島はどこもそうですけど、やはり総合交付金に頼らざるを得ないところがありますので、今後ともよろしくをお願いします。離島についても同様です。

○行政部長 それでは最後に、知事から一言お願いします。

○都知事 これからも島しょ地域を応援しておりますので、大島町のほうも頑張ってくださいと存じます。ありがとうございました。

○大島町長 ありがとうございます。またよろしくをお願いします。

(了)

『利島村』

平成29年2月15日（水）

13時17分～13時32分

○行政部長 それでは冒頭、知事から一言ご挨拶申し上げます。

○都知事 ご遠方から、今日もありがとうございます。日ごろよりの都政運営へのご協力に改めて感謝を申し上げます。

都政の見える化ということで、今日のやりとりもネット中継させていただいておりますので、ご了承いただきたいと存じます。

先月の末、利島村のほうに伺わせていただきました。やっぱり直接伺ってみると本当にいいところがたくさんあるということを確認させていただいて、これから島しょ地域、それぞれ宝島といたしまして磨きをかけていく、そのお手伝いをさせていただければと思っております。

一方で、色々と課題も抱えておられることも存じ上げておりますので、今日は直接、村長のほうから、現状と、それから今後の課題、そして都へのご要望を伺わせていただければと思います。どうぞよろしく願いいたします。

○行政部長 それでは、前田村長、ご発言をお願いいたします。マイクをお使いください。

○利島村長 利島村の村長の前田でございます。

それでは、要望等について述べさせていただく前に、一言、御礼を述べさせていただきます。小池知事には、先月、厳しい日程の中、利島に来島され、島の実情をご視察いただき、ありがとうございます。また、子供たちをはじめ、多くの村の人とともに、大歓迎のうちに対応させていただきました。

また、去年は、20年ぶりに大発生いたしました椿林の病害虫被害対策では環境局に、それから夏の湧水では総務局行政部及び水道局に的確なご支援をいただきました。その結果、特に湧水対策では断水直前まで迫った危機的状況を回避し、復旧することができました。村民とともに改めて御礼申し上げます。ありがとうございます。

それでは、行政運営上の課題、取り組み等につきまして、またそれに関連した要望等について、順に述べさせていただきます。

まず最初に、行政運営上の課題、取り組み等について、述べさせていただきます。

まず、椿産業や観光の振興、港湾施設の拡充整備への取り組みがあります。椿産業の振

興では、日本一の椿油生産量維持とともに、椿林保全組織の立ち上げや、椿油ブランド化に向けた取り組み、また観光振興では、観光拠点として山頂展望台の整備や、ふるさと納税活用への取り組み、また、港湾の整備では就航率の向上が求められている現状がございます。

次に、高齢者福祉や教育施設の充実に向けた取り組みがあります。利島では重度の介護者は、ご本人、ご家族の希望に関係なく、島外に出ざるを得ない状況にあります。また、中学生は、高校がないために卒業と同時に島を出て、都会で一人、生活と勉強を両立させる必要があります。したがって、ご家族やご本人の経済的、精神的な負担が大きく、村の財政とともに、その対策が求められている現状がございます。

また、防災・減災を含むライフライン、通信インフラ等の整備拡充への取り組みがございます。洋上に孤立した島の自然環境においては、浄水施設等のライフラインへの共通課題として、平常時の防災・減災対応はもとより、大地震等の被災後における生命、生活維持のために、太陽光、再生エネルギー等の適用が求められている現状がございます。

以上述べました取り組みや課題に対して、行財政に関する要望をこれから述べさせていただきます。

まず、全体的な要望といたしまして、近年の病虫害対策や濁水対策などへの緊急対応のため、基金の取り崩しが発生したこと。また、浄水場の更新、ブロードバンド、汚泥再生処理施設、太陽光等のインフラ投資が集中する状況となり、財政運営が厳しくなる平成29年度以降の数年間において、効果的な財政支援をお願いしたいと思います。

また、村に技術系職員が少ない中で、これらを同時に効果的に進めるために、情報の提供、技術支援を並行してお願いしたいと思います。

次に、個別の要望を述べさせていただきます。

まず、椿産業では、椿林の実態調査、また椿油増産に向けた椿林の維持更新事業や、椿油のブランド化に向けた取り組みへの支援を。

また、観光振興では、観光協会、これはまだ仮称ですけれども、観光協会設立準備、案内板の多言語化、サクユリ焼酎の特区活用、電動エスカートの導入、また360度の展望を望める山頂展望台整備への取り組み等への支援を。

また、港湾整備では、就航率向上に向けた防波堤、消波岸壁の拡充整備、越波対策及びレッドゾーンに一部指定されました船客待合所の早期建て替えをお願いしたい。

また、給付型奨学金の創設、運用に際し、小規模離島の就学実態を考慮し、島内世帯へ

の支援も可能になるよう、お願いしたい。

また、現在、電力会社が独自に設定しています太陽光等の再生エネルギーの送電系統への接続制限容量の緩和に向けた取り組みへの支援もお願いしたいと思います。

また、1年前倒しになりましたブロードバンド整備に伴う防災、医療、教育、観光等のニーズ適応への技術支援をお願いしたい。

以上、これらの要望、すなわち私たち小離島における課題は、小池知事が掲げられているダイバーシティ、セーフシティ、スマートシティの3つの概念、または開花すべき花でしょうか、その中でダイバーシティの概念の進行、浸透により解決できると信じております。ぜひ、椿林に、強風の中においても凜と咲くサユリの花のように、3つの大きな花の咲きそろうことを期待しております。

以上で終わります。ありがとうございました。

○行政部長 どうもありがとうございました。

それでは知事から、お願いいたします。

○都知事 ありがとうございます。幾つかご要望をいただきました。

まずは、何よりも財政の支援だということで、効果的な財政支援が必要との訴えでございます。地域の発展を支える、それぞれの自主的な、また自立的な取り組みと、それから都が適切な財政支援を行うことによって、車の両輪のように進んでいくということを念頭にしながら、利島の実情を踏まえて、例えば椿病、病害虫の対策であるとか渇水対策、それぞれオーダーメイドで対応させていただきたいということで、財政支援のほうもしっかりと取り組ませていただきます。

それから、個別の案件として、椿産業でありますけれども、椿油の生産の振興は島にとっても死活的に重要であるということがよくわかりました。そしてまた、椿林の更新時の伐採であるとか植栽についても支援を行ってまいりたいと思います。ブランドの確立ということで、特産品としてのPR、販売促進など、村や生産者団体の実情に応じた支援を行っていきたいと考えております。

技術職員が少ないというお話がありましたけど、もうそれは村長自らでいいんじゃないでしょうか。技術者そのものでらっしゃるので、頑張ってください。また、色々と技術職員の確保のほうもお手伝いできればと思います。

それから、観光であります。新たな観光協会の設立の支援ということで、観光まちづくりの専門家の派遣とか、設立に必要な経費の助成などを実施させていただきます。

○利島村長 ありがとうございます。

○都知事 それから展望台ですけれども、平成25年に改修したということですが、自然の保護と利用の観点から、引き続き、国そして村と調整を図らせていただく考えであります。

それから、港でありますけれども、先ほど就航率の向上というお話がございました。これも死活的な課題だと思いますので、防波堤などの問題解決など、引き続き整備をしてまいります。

それから、高齢化が、高齢化が23.1%ですね。

○利島村長 はい。

○都知事 地域包括ケアシステムということで、村民の方が337名で、皆さん、大体、名字が同じ方が多いわけですから、それでもやはり色々今後の高齢化ということを見ると、手当てが必要ということがございます。子育てと、それから高齢者が安心安全に暮らせる社会の実現ということで、今回、予算案にもかなり増額をして、支援していく、これは東京都全体でありますけれども。そういった観点からも、地域の実情を踏まえながら、適切に対応させていただくと考えております。

それから、再生可能エネルギーの問題。これは島で抱えている共通の課題だと思います。これまでも国に対して、接続容量の問題について、ここを緩和してほしいということで、国に働きかけるなど、これは9都県市で合同して、協力して要請をしているところでございますけれども、都としても、この点については対応させていただく考えでございます。

○利島村長 よろしく申し上げます。

○都知事 それから、簡易水道施設でありますけれども、これについては住民の皆さんに安全で良質な水を安定的に供給するというので、都としても引き続き支援をいたしたく存じます。

それから、一番大きなあれですね、今申し上げたかな、もう。あとブロードバンドの導入ということで、これはフリーWi-Fiの整備を推進して、これがすなわち観光振興にも活用できるということだろうと思いますので、積極的に機能向上を支援していきたいと考えております。

○利島村長 よろしく申し上げます。

○都知事 私のほうからは以上でございますが、もし何かつけ加えることがありましたら、どうぞ。

○行政部長 村長、お願いします。

○利島村長 今、知事も言われましたように、インフラの場合は、特に島の孤立性を考えますと、特に浄水場、水の供給に関しましては再生エネルギーの適用が必須の状況であるというのは、うちの場合、電気がとまると、即、水がとまってしまうというような状況にございまして、現在もその状況はあるんですけれども、そういった状況をできるだけ、即、解消するために、太陽光を施設の中に取り込んでいきたいということを思っております。電力システムの安定性の問題等で制限がございまして、なかなか出来ておりませんので、今年は何とか、制限の20キロ以内でやる予定なんですけれども、今後それを拡大していくためには、それをクリアしていかないといけませんので、電力会社に色々今も交渉している最中でございますけれども、またご支援をよろしくお願ひしたいと思ひます。

○都知事 あと、樺の害虫駆除のほうは、これはかなり進んでいるとは聞いているんですが、現状はどうでしょうか。

○利島村長 去年、BT剤等、薬剤散布等でご支援をいただきましたけれども、その結果、ちょうど先週、2月9日でしたか、さなぎの掘り取り調査をやったばかりですけど、去年と比較して、去年は大体、村人が約100人ぐらい参加していただきまして、そこで捕まえたさなぎのサンプルが約1,100匹ぐらいいたんですけれども、今年2月9日は同じ人数が参加して、見つかったのは1匹でありました。だから、1,100分の1に減っているというぐらいに、雑ばくに言うと非常に今年は少ない可能性があるということで、散布の影響が、効果があったのではないかという具合に考えております。

自然のレベルよりはまだ高いということですので、今年も引き続き、それはやる予定ではいるんですけれども、引き続き、去年と同じように支援をお願ひしたいと思っております。

○行政部長 ほかはよろしいですか。

○利島村長 はい。

○行政部長 それでは、最後に知事から一言申し上げます。

○都知事 これからも利島の良さを十分に生かして、私どもはそれのお手伝いをさせていただくということで、これからも島民の皆様方と力を合わせて頑張りたいと思ひます。

○利島村長 ありがとうございます。よろしくお願ひします。

○都知事 よろしくお願ひいたします。

○行政部長 それでは、以上をもちまして終了とさせていただきます。

○利島村長 ありがとうございます。

○行政部長 お忙しいところ、ありがとうございました。

(了)

『御蔵島村』

平成29年2月15日（水）

13時32分～13時42分

○行政部長 それでは冒頭、知事からご挨拶を申し上げます。

○都知事 お忙しいところ、また都庁までご足労をおかけいたしまして、誠に恐縮でございます。日ごろから都政の運営に協力いただいていることは、重ねて御礼申し上げます。

座ったままで、このまま進めさせていただきます。

都政の見える化を進めているということで、このやりとりにつきましてもネット公開させていただきますので、ご了承いただきたいと思っております。

御蔵島は、昨年11月に伺いまして、イルカウォッチングや、もう皆さん、村の皆さんに大歓迎を受けまして、本当に楽しい思い出となっております。それから人口が増えているということで、非常に島の運営といたしましうか、そういったことで一つ大きなヒントを与えてくださっていると思っております。

今日は、もう既に村には伺いましたけれども、実情をしっかりと改めて伺わせていただいて、今後の課題と、それから都への新たな、またご要望等々伺わせていただこうと思っております。新年度予算のほうも、予算案も、これから審議に入るところでございますが、どうぞ今日は忌憚のないご意見を伺わせていただきたいと存じます。

○行政部長 それでは広瀬村長、ご発言をお願いいたします。マイクをお使いください。

○御蔵島村長 日頃、伊豆七島の島々を回ってらっしゃったということで、本各島に東京都の皆様はじめのお力添えで、本当に各島が、それぞれが今までの協力または助けていただいて、感謝しております。また今後ともよろしくお願ひしたいと思っております。

まず、それで、私どもの島の今の課題ということで。

今まで、東京都のほうからヘリポートの建設ということで、一番やはり我々が今、大型の事業で取り組んでいるものがあるわけですけど、これがやはり今一番、総合交付金を含めてご協力をいただいているということなんですけど、やはり自然、それから29年度までの分を含めてやっているわけですけど、この1月、2月というのは、うちのほうの島と青ヶ島、御蔵島は特に交通アクセスが悪いということで、1月が7日間、それから2月に入って6日目にやっと、建設資材が入ってきたということで、やはりその遅れというのは我々も危惧してるところで、これは何とかしないとということ、やはり今の中で行くと

港湾の整備、一番重点的に、やっていただかなければいけないということで、この辺はぜひとも、今後とも協力をお願いしたいということで、よろしくをお願いします。

あと、やはり今のうちの現状というのは、住宅建設なくして産業振興、それからインフラの整備というのができてないと。なぜかというと、やはり急峻な土地なので、住宅建設するにしても、大変な、要するに造成費等、建設コストがもう本当にほかのところに比べて大変、かかってしまうということで。ましてや、この2月から今度、土砂法の関係が改正されまして、それで今、住民たちで説明会等を開いているんですけど、都のほうで開いていただいているんですけど、これがやはり急傾斜地で、住んでいるそのものがイエローからレッドという中で入ってきてしまうというので、これはまた個人にしてみれば大変な、家を建てるとか、擁壁がつくとかということになると、これも負担になってくるということで。うちは残念ながら、今、ほかのところと違って、空き家がなくて、住宅が全く足りなくて、人を、Iターン、Uターンにしても、採用したくても、まず住宅がなくて、困窮して、これを解決しなければいけないということで、村営住宅の建設を早くしたいということを村は今、進めてるんですけど、なかなか思うように進んでないというのが実情で、これからもその辺の部分を含んでご協力いただければというふうに思っております。

今、あとはやはりヘリコプター、交通アクセスですね。それから各島にインフラ整備していただいている光ファイバー、これが、あと残っているところが利島さん、それから新島さん、神津島さん、あと青ヶ島さんと。これがそろえば伊豆七島、全てが入りますので、この辺もぜひひとつよろしく願いいたします。

○行政部長 知事、お願いいたします。

○都知事 まず、市町村総合交付金制度であります、地域の特性を踏まえたまちづくり事業の推進ということで、今後とも村の財政需要には的確にこたえられますように、特に今、お話のありました崖というか、急峻な土地であることは、私も伺ったときによくわかりました。坂が多いなということももう、今もイメージとして残っております。

それから、ホエールウォッチングで随分若い人のIターンがあるということは、せっかくのチャンスですからね、そうやって人口を増やすということでは。そういった意味では村の財政需要に、これを活かしていただければと存じます。

それから、三宅村ヘリポートの三宅島空港への移設ということも、直接絡んでくる話かと思えますけれども、三宅島のほうの火山ガスの影響も、空港への影響も少なくなっているということなので、三宅村のヘリポートを利用しているヘリコプターを三宅島の空

港で受け入れる方向で検討させております。前向きに取り組ませていただこうと思っておりますので、こちらでエアのほうは確保できるかと思えます。

それから、今の港湾ですね、これにつきましても、それぞれの事情に合った取り組みということで、都としても交付金等も活用していただくということになろうかと思えます。

それから、これは島を代表しておっしゃったと思えますけれども、光ファイバーの敷設の件でありますけれども、これについては前倒しで今回の新年度の予算で進められるようにつけておりますので、これでかなり島の方々が、島でもいろんな、またIターンとか、そういった方々を迎え入れられるような、そういう環境はかなり整うことになるのではないかと考えております。

それから、大体それぐらいをお伺いしたかと思えますけど、もし追加があればどうぞ、ご自由にお話しいただければと思えます。

○行政部長 お時間ありますので、忌憚のないところをお聞かせいただければと思えます。

○御蔵島村長 先ほど特区のことで、焼酎のことについて、これは本当にありがとうございます。これがやはり今後の我々の島の一つの、島を売り出すための、やはり産業の一つにもなるということで、期待もしております。

それから、やはりこれをやるための施設整備ということになれば、若干の、これは1次産業から、それから加工の2次産業までということで、つながりが出てきますので、これもやはり3年、4年、5年たって、やはりおいしい焼酎が御蔵のほうに来たら必ず飲めるんですよというような売り出し方というのを、私はぜひ実現したいと思えますので、やっていきたいと思えますので、これからも本当にご協力のほど、よろしく申し上げます。

○行政部長 それでは最後に、知事から一言お願いいたします。

○都知事 今回は特区を活用していただいて、そして酒税、酒の税ですね、酒の税ではないですね、特区の観点から今回、焼酎に対して製造がよりやりやすくなるという話でございますけど。あちこち、焼酎をつくっているの、よほど何かブランド化していくということも必要かなというふうに思います。ですから、焼酎の製造に加えて、どうやって販売していくか。ここがむしろ、みそになるじゃではないかなと、次の課題になると考えておりますので、そのあたりはみんなで知恵を出し合いながら、青ヶ島の焼酎もあれば御蔵の焼酎もあるということで、競い合っていただければ。それも島同士で競い合うだけではなくて、日本全体、もしくは世界をマーケットにするにはどうしたらいいか、それぐらいまで考えてないと、最近の製造業というのは大変な分野だと思っておりますので、そこも観

点に入れた今回の焼酎特区ということで、活かしていただきたいと思います。

○御蔵島村長 まぼろしの焼酎で、島に来ないと飲めないからと、ブランド化させたものに、ちょっと私はしたいなと思っているんですけど、やはり原材料そのものがどこにでもあるものではなくて、うちの島だけしかないというものでぜひやりたいということを思っていますので。今後とも本当に、すみませんが、よろしくお願いします。

○行政部長 それでは、以上をもちまして終了とさせていただきます。お忙しいところ、どうもありがとうございました。

○御蔵島村長 いえいえ、こちらこそ。どうもありがとうございました。

(了)

『羽村市』

平成29年2月15日（水）

13時45分～14時04分

○行政部長 それでは冒頭、知事からご挨拶申し上げます。

○都知事 今日も都庁までご足労をおかけいたしました。また、日ごろより市長会をはじめとして、ご活躍誠にありがとうございます。

今日は羽村市の市長としてお話を伺い、現在の羽村市の問題、課題、そして都へのご要望などを伺わせていただければと存じます。

都政の見える化を進めているところでございまして、このやりとりもまたネットで中継させていただきますので、ご了承いただきたいと存じます。これからもますます発展するまちでいらっしゃいます、そのリーダーとしてご活躍いただければと存じますが。

では早速、座ったままで結構です。

○羽村市長 今日は、交換会を催していただきありがとうございます。

今、ちょっと市長会のお話もしていただきまして、ありがとうございます。たまたま会長をやっておりましたけれども、昨年11月11日、予算要望とか、あるいは都市町村協議会というふうな形で、知事にご就任以来、いろんな形で透明化とか、あるいは市長全員とお会いしていただくような機会とかつくっていただきまして、今日のここまでの流れの中で、知事のそういうご配慮に対しまして、心から御礼を申し上げさせていただきたいと思っております。特に11月11日、懇親会のところまで、最後までお出ましいただいたということで、それぞれの印象も強くさせていただいておりますので、そこを申し上げさせていただいて。と同時に、今日の個別の意見交換会につながっているというふうに思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

それでは、早速、羽村市につきまして、ご説明させていただきたいと存じます。

まず、羽村市の現状と課題ということで、初めに羽村市の概要でございすけれども、お手元に資料も配らせていただいておりますけれども、新宿から西に約40キロ、人口は5万6,000人、面積が9.9平方キロということで、人口は多摩地区の市の中で最も少ない人口でございす。また、面積は3番目に小さいコンパクトな市が、羽村市でございす。

羽村市の中には、360年ほど前の江戸時代に、江戸に水を供給するために開削された

玉川上水の取水口、取り入れ口である羽村の堰というのがございまして、これは区部も含めて、多くの小学校4年生が社会科の見学等で来るような施設がございます。羽村の堰でございますけれども、東京都の重要な水道施設であるとともに、羽村市にとっては貴重な地域資源であり、まちの大切なシンボルになっております。また、多摩川の関係でいいますと、昭島市からもご説明があったと思いますけれども、水道事業、独自の水道事業も羽村市は展開しているということで、水とのつき合いが非常に濃いまちでございます。

また、市域には米軍及び航空自衛隊の横田基地が、面積は少しでございますけれども、所在していると。それから、多摩26市では唯一の市立の動物公園を有しているまちでございます。

まちづくりの特徴でございますけれども、羽村市は昭和37年に首都圏整備法による市街地開発区域の指定を受け、以降、区画整理により市街地の整備を進め、工場地区と住宅地区を適切に配置し、工場を多数誘致して、職住近接のまちづくりを進めてまいりました。

地図がお手元にありますでしょうか。羽村市はその全図の中で区画整理事業を進めてきたことと、日野自動車の羽村工場というのがございますけれども、多くの面積を含めて、そういう製造業が立地しているところが羽村市の特徴になっております。

こういう職住近接のまちづくりを進めてきた成果として、市の財政構造は法人からの市民税法人分の割合が高く、普通地方交付税の不交付団体として、37年間のうちの8年間は交付団体でございましたけど、そのほか29年間は不交付団体として自力で頑張るような市政を今まで展開してきたところでございますけれども、景気の動向の影響を受けやすく、昨年からの円高基調による企業収益がマイナス面の影響を受け、大幅な減収になると、今年度は見込まれております。厳しい状況に置かれるというふうに承知しているところでございます。こうしたことから、経済状況の変化による年度間の収入変化に対応するために、中長期的な視点に立って、安定的な基金残高を確保するとともに、総合交付金等の特定財源も有効に活用させていただきまして、財政基盤の強化を図ることが最重要項目というまちでございます。

それでは、3点に限って、今回の具体的なお話をさせていただきたいと存じます。1つ目に、都市基盤整備、そして2つ目には、人口減少社会への対応、そして3つ目には、公共施設・用地の総合管理という3点にわたって、お話しさせていただきたいと存じます。

まず、都市基盤整備でございますけれども、先ほどお話し申し上げましたとおり、都市の基盤整備のためには区画整理事業ということで、まちの発展をしているところでござい

ます。今まで区画整理を4カ所、市の中の、地図でいいますと色塗りしているところがございますけれども、4カ所で区画整理事業を。線路の右側の、だいたい色から青、赤、ピンクと、あれが区画整理事業で発展させていただいたところで、全体の面積の中の約66%が区画整理事業で行われているということでございます。

今日お話を一番させていただきたいのは、赤いところがございますけれども、ここが第5番目の区画整理事業という形で、羽村市の玄関口である青梅線の羽村駅西口地区と申し上げますけれども、ここはもともと玄関口で、一番先に基盤整備されていたところがございますけれども、気づいたときには、ここが一番古くて使いにくい場所ということで立ち遅れて、狭隘な道路とか、あるいはスプロール現象が進行しているということございまして、ここについて、最後の区画整理事業として頑張らなければということで進行してございまして、平成15年に都市計画決定いただいておりますけれども、その以前から、この地域については東京都とご協議させていただき、ご指導いただきながら取り組んできている事業でございます。よくやっていただいております密集住宅地区整備モデルケースとしても、技術的にも、あるいは財政的にもご支援いただいております。

現在の状況でございますけれども、重点地区を定めて、4カ所決めましたけれども、やっと、槌音と言いましょか、事業展開をここから始められてきているという状況でございますので、ハード面に着手できたということは大変嬉しいことでございますけれども、これからまた時間をかけながら、この整備に当たっていくには、我々は自力で一生懸命努力はいたしますけれども、変わらぬ東京都からのご支援とご指導を賜りたいと存じております。

そして、この区画整理事業でございますけれども、赤いところが今回の事業でございます。その横に赤線で都市計画道路の3・4・12号線という道路が走っております、区域内に。上のほうの右が瑞穂町でございます、そして下があきる野市という形になって、この道路につきましては、瑞穂の町長さん、あるいは皆さんからお話もあったかもしれませんが、モノレールの構想路線になっておりますので、循環していくのに大変重要な道路でございます。多摩川を挟んで羽村大橋というのがございますけれども、その工事につきましても東京都の施行で近々中にこれを、今、指しているところの手前があきる野市でございまして、この手前に橋がかかっておりますが、これを拡幅して、3・4・12号線の道路を行くんですが、真正面のところから先が今回の土地区画整理事業のエリアでございます。ここから上に、高架として道路を、3・4・12号線を上げて、瑞穂町のほう

に行くという大きな事業でございます。連携しながら、この事業についてはきちんとやっていきたいということでございますので、どうぞよろしくお願いを申し上げます。

次に、人口減少社会への対応ということでございますけれども、平成3年11月に市制を敷いて以来、穏やかに人口は、先ほどの経済状況もありまして、増加の一途をたどっておりましたけれども、平成22年9月にそのピークを迎えたものの、その後は一転して減少傾向が続く状況でございます。こうした状況を踏まえて、市では人口減少にスピード感を持って対策を打つこととして、さまざまな施策に取り組んでおりますけれども、特に子育ての分野では、これまで積極的に市内民間保育施設の建て替えや定員の拡大を支援するとともに、東京都の制度であります認証保育園制度の活用も図りました結果、保育園の待機児につきましては、今年は1名、昨年度はゼロという状況で済ませていただいております。今後とも引き続き、多様化する保育需要等を見据え、さらに子育て支援の充実に努めていく考えでおりますので、東京都におきましては、待機児童の解消とともに、待機児童のいない市においても良質な保育サービスを提供するための支援について、お願いを申し上げさせていただきたいと存じます。

3つ目でございますけれども、公共施設及び用地の総合管理についてでございます。羽村市は先ほど申し上げましたとおり、昭和40年代から50年代にかけて多くの施設整備を行ってきたところでありまして、当時、町立としては、先ほども申し上げましたけれども、全国初となる町立の動物公園を設置するなど、独自の施策の充実に努めてまいりました。近隣からも多くの方々に訪れてきていただいております。この施設が今後、老朽化を迎えるに当たり、適切な対応が課題となってきております。この課題に向けても、我々は総合計画を、管理計画を策定して鋭意努力をしておりますけれども、東京都におきましても、総合交付金などによる財政支援について、よろしくお願いを申し上げさせていただきたいと存じます。

以上、3点に絞らせて、課題と現状につきまして、ご説明させていただきました。これからは我々は努力させていただきますけれども、引き続き東京都におきましては、改めまして一層のご支援とご指導をお願い申し上げます。発言とさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

○行政部長 どうもありがとうございました。

それでは知事、お願いいたします。

○都知事 市の全体像、そして個々の課題について、端的にお伺いすることができました。

順番が異なるかもしれませんが、それぞれご要望に対しまして、都としての考え方を
お伝えさせていただきます。

区画整理の話を伺ったわけですが、安心安全な都市実現のためのインフラ整備
ということで、その重要度は都としても認識をいたしております。今後とも助成制
度を活用しながら、適切に財政の支援をさせていただくことになろうかと存じます。

それから、同じくインフラ関係ですが、多摩地域でのインフラ整備への財源の配
分についてでありますけれども、多摩地域の利便性を高めていくということは、多摩格差
云々の話につながってくるかと思えます。活力を引き出していくということから、多摩の
南北、東西道路をはじめとする必要なインフラ整備については着実に推進してまいりたい
と考えております。

それから、公共施設の老朽化対策への対応でございますけれども、こちらのほうもイン
フラ施設の老朽化対策というのはスマートシティ、安心安全なまちづくりという観点から
も必要な施策と考えております。老朽化対策の促進、例えば先ほどの橋ですか、橋梁など、
道路施設の老朽化対策などを含めて、適切な支援を行ってまいりたいと考えております。

それから、法人税の揺れ幅によって影響を受けられるというお話がございました。日野
自動車とカシオさんという。あれですか、待機児童ゼロ、ほぼゼロということは、企業内
保育とかというのはやってらっしゃるんでしょうか、こういったところ。

○羽村市長 やっておりませんです。

○都知事 そうではなくて。そうですか。こういった地域では、かえって企業内保育だと
職住接近ということでプラスなんだろうとは思ったんですが、そうではなく、むしろ市の
ほうで頑張っておられるということですね。わかりました。

それから、何よりも今のアメリカの新政権でどういうふうになっているのかなと、さっ
きもちょっと皆と話をしていたんですけども、影響がないことを願っております。

それから、そうですね、あと私のほうから、財政基盤の強化という観点でございますけ
れども、企業誘致で職住近接のまちづくりが、かえって不安定な税収構造をもたらしてい
るということでありますけど、いいときもあれば悪いときもという、いい加減なことは言
えないんですけども、これからも地域の実情を踏まえて効果的な支援ができるように、
都としても努めてまいりたいと考えております。

それから、総合交付金については、局長のほうからご答弁させていただきます。

○総務局長 以前より伺っておりました市町村総合交付金の配分の制度に関する問題で

ざいまして、経営努力を適切に反映する仕組み、各種の個別事情を一層反映する仕組みの拡充というお話でございます。

各市町村の主体的な行財政改革の取り組みを促す仕組みというのは、非常に重要と考えております。時代の変化に適応した的確な制度とするために、今後とも色々とお話をさせていただきながら、適時適切に見直しを検討してまいりたいと、このように考えておりますので、よろしくお願いいたします。

○行政部長 それでは市長、つけ加えること等ございましたら。すみません、マイクをお使ください。

○羽村市長 総合交付金について、29年度、そして28年度と前倒ししていただいて、本当に市長会としても私たちとしても、皆さんも感謝しておりますので、今のお話のように、それぞれの使い方について、十分、我々も努力して精査して、有効な使い方をさせていただきたいというふうに思っておりますので、よろしくお願いをいたします。

それから、地域につきましても、そういう法人税あるいは工場依存と、小さなまちですので、そこが倒れると、ということもありますけれども、まだ、私たちはまだまだ、出ていく企業もありますけれども、入ってきてくださるといふか、そういう、今の市政の基盤は変えずに、これから長期総合計画、後期を立てて、5年間今年からやっていきますけど、その中でも頑張っていこうということで、まちづくり、その他全体の変質というところまで行かないように、また、いい意味で不交付団体を頑張っていていけるよう、自助努力といふか、自分も努力していきたいというふうに思っております。

それから横田基地に関しましては、色んな5市1町という形で、それぞれ基地の関係、日米安保その他は関係なく、地元の施設、自治体として、それぞれの協議をさせていただくときに、東京都の皆さんと一緒に、そういうところをやっておりますので、また来年度は羽村市がそういうところの当番市という形も、ローテートでやっておりますので、十分協議しながら、今の状況の中で、あるべき姿ということ、自治体として、責任を持った活動、行動をしていきたいというふうに思っておりますので、どうぞよろしくお願いをいたします。

○行政部長 よろしゅうございますか。

それでは最後、知事から一言お願いいたします。

○都知事 ありがとうございます。

刺し棒の先っちょについているのは、羽村ちゃんなんですか。

○羽村市長 はむりんちゃん。

○都知事 はむりんちゃん。そうですか。そういうのは誰が用意したんですか。

○羽村市長 今年、全国で300台の順番でしたか、キャラクターの投票をやっておりますけれども、東京都でははむりんちゃんが2番目でした。一番がどこでしたか、多摩市でしたか。ちょっと忘れちゃったけど。来年は一番を。子供のかわいいマスコットです。ありがとうございます。

○都知事 市でキリンを飼っておられるのも数少ないと思いますけれども。コンパクトなまちということで、これからも、そうですね、企業城下町としてでも、それからベッドタウンとしてでも、それぞれ魅力を増していただきたいと存じます。

水が豊かなんですね。ちなみに、上にガーッと人が並んでいますけど、あそこが橋なんですか、それとも。向こうの下のは何なんですか、下のほうの。

○羽村市企画総務部長 こちらが都道、先ほどの。

○都知事 その上が。

○羽村市企画総務部長 人道橋で。反対側にも地区があります。

○羽村市長 下は、神輿が川に入るといふ風物になっております。

○都知事 随分高いところに人が立っているの。

○羽村市長 あとは、チューリップ畑が、関東一の株数を持っておりますので、ぜひお出かけいただきたいというふうに思いますので、よろしく願いいたします。

○都知事 どうも今日はありがとうございました。これからも市長会のほうもよろしく願いいたします。

○行政部長 それでは、以上をもちまして終了させていただきます。お疲れさまでございました。

(了)

『武蔵村山市』

平成29年2月15日（水）

14時05分～14時30分

○行政部長 それでは冒頭、知事から一言ご挨拶申し上げます。

○都知事 今日はお忙しいところ、藤野市長におかれましては、都庁までご足労をおかけいたしました。ありがとうございます。また、日ごろよりの都政運営に対しましてのご協力を改めて感謝申し上げます。

今日は武蔵村山の実情、そして今後の課題、そして都へのご要望、率直なところをお伺いしたいと考えております。

なお、都政の見える化ということで、ネットで中継させていただいておりますので、ご了解を賜りたいと存じます。

どうぞたっぷり時間はございますので、アピールしていただければと思います。よろしく願いいたします。

○行政部長 それでは藤野市長、ご発言をお願いいたします。

○武蔵村山市長 ただいまご紹介いただきました武蔵村山市長の藤野でございます。本日はこのような意見交換の場、私たちの熱い思いを聞いていただける時間帯をとっていただきまして、本当に心から感謝申し上げます。

武蔵村山市の現状とか課題について、ご説明をさせていただくわけでございますが、ちょっとお時間があるということで、武蔵村山市のPRもさせていただければと思っています。

武蔵村山市は、東京都でも一番のものがたくさんございます。1つはミカン。ミカンの生産量、ミカン狩りができるまちというのは多分、東京都でも武蔵村山市だけであろうと。そしてリンゴの生産量も一番。お茶もそうです。小松菜もそうです。都市公園の市民1人当たりの面積も一番というところで、一番のものがたくさんある武蔵村山市なんです。東京都の伝統的工芸品の村山大島紬というのも、有名な名産地でございます。

そんな中で、1つ欠けているものがあるなど。皆さんもお気づきのとおり、多摩都市モノレールの早期延伸ということでございます。こちらにございますとおり、鉄道駅がない当市にとって、多摩都市モノレールの延伸が最重要課題であります。年末に都で出されました実行プランでは、事業スキームの検討を行う旨の記述をしていただきました。そして

早期の事業化につながるものではないかと、7万2,000市民、心から感謝申し上げる次第でございます。

現在のご案内のとおり、このモノレールは東大和市の上北台まで、こちらにございます、ここで今、高架がとまっているわけでございます。これがちょっと新青梅街道へ、武蔵村山市へ頭のほうがちよっとぶれて向いてるんですね、そういうところを私たちは細かく見ておりまして、ですからこれは間違いなく次期整備路線、武蔵村山市を通って箱根ヶ崎方面への延伸ということを私たちは考えているわけでございます。

そして、今こちらに、知事にも差し上げさせていただきましたモノレールグッズの中で、特にモノレールのボールペンが、ちょっと開いていただきますとこんなふうになるわけです。何しろ市民の悲願でありますから、長年の7万2,000市民の悲願を私たちはボールペンでちょっとつくらせていただいて、いろんなところにこれをPRさせていただいているところでございます。裏が武蔵村山市の観光・名産、表がモノレールということで、ぜひご笑納いただければと思っております。

次に、こちらの図面を流していただければと思っております。こちらの図面では、武蔵村山市がいかにも不便な地域かということでございます。こちらの図面では駅勢圏から外れている地域を空色に塗ってあります。ご存じのとおり、武蔵村山市の面積。

○都知事 そちらで写していただいたほうがいいと思う。

○武蔵村山市長 では、あちらで見てもらって。

武蔵村山市は、ほとんど青色に塗られているということは、市の全域が駅勢圏から外れているということを意味しております。ちょうど赤く囲ってあります15.35平方キロメートルが、トランクスのような武蔵村山市は地形になっております、そのほとんどが駅から相当離れているというお話をさせていただいております。

そして今度は、道路のお話でございます。道路の利便性を考えるとき、一般道路では都心まで相当時間がかかってしまいます。今日は1時間10分ほどでこちらまで来ましたが、ふだんは2時間ほどみないと都庁まで届かないような状況でございます。高速道路へのアクセスが全く重要なんですけれども、この図面では朱色は高速道路でございます。小さな黄色の丸はインターチェンジということで、このように当市では高速道路へのアクセスも非常に悪く、鉄道、道路、両方とも大変利便性が低いまちだということがご認識いただけたと思います。

市の調査では、市民が通勤や通学で比較的近いところにしか通えないという結果も出て

おります。立川の駅までのアクセスを例にとってみますと、現在は市役所からバスで立川まで、普通で40分。雨天時の遅延を考慮しますと50分、1時間、立川の駅まで行くのにかかっているようなのが現状でございます。モノレールがもし延伸されましたら、今は上北台から立川北まで13分、それから6分ほどで市役所の南に来ますので、合計でも、モノレールですと20分程度で立川駅北まで行けるのではないかなというふうに考えております。通勤通学の自由度が飛躍的に高まって、住宅の整備に弾みがつくのではないかなというふうに考えております。

そして、市の中心部、私たちの中心部で今、大規模な土地区画整理事業を実施しております。ここが市の中心駅となるところでございまして、将来の駅前広場となる用地の確保や新青梅街道の一部拡幅も先行的に行っているところでございます。モノレールの導入空間となる新青梅街道の拡幅事業は、都によりまして全区間、事業着手済みでありますけれども、用地取得を推進するため、必要な人員及び事業費の確保により早期の事業推進をお願いしたいというふうに考えております。

また、繰り返しになりますが、効率的な事業執行のためにも、新青梅街道の拡幅事業の時期と合わせて、早期にモノレールの事業決定をお願いいたします。

そして次に、市の北部に位置しております緑の部分でございますけれども、都内で最大級の都立野山北・六道山公園や、都立中藤公園などが計画されております。都心からの距離も比較的近くて、将来有数の観光拠点になり、モノレールの需要創出にも効果が大きいと見込まれております。その狭山丘陵一帯の近くに、市が掘り当てた、かたくり温泉、温泉があります。今でも多くの利用者が利用していただいってもらって、大変にぎやかな盛況な温泉になっております。ぜひ一度、武蔵村山市へお越しいただいたら、足を運んで入浴していただければ、ただ券を差し上げさせていただきますので。

いろんなお話をさせていただきます。ぜひモノレールの需要創出について、効果が大きい、武蔵村山市のために、一日も早い整備を進めていただくよう、お願い申し上げます。

次に、都営村山団地、黄色い部分のお話をさせていただきます。現在、都内最大級と言われております都営村山団地の建て替え事業が今行われております。既に前期、中期と進められて、後期の建て替え事業に現在入ったところでございます。これまでの建て替え事業で公共公益施設等の整備として集会施設や老人福祉施設などを整備するなど、市のまちづくりに東京都には大変貢献していただいているところであり、感謝を申し上げる次第でございます。現在は建て替え中のため、戸数としては26市で10番目の4,327戸で

あります。そして、平成42年度末の完了の際には、おおむね1,000戸弱増加して5,260世帯。そうなりますと、26市で6番目の規模となります。当市の人口は現在約7万2,000人でありますから、同程度の規模の都営住宅を持つ市はおおむね当市の2倍から3倍の15万人から20万人人口規模の市が多いということでございます。当市では人口に対する都営住宅の割合が23区を含めて都内で最も多い自治体となっております。そして、団地内は、市内のほかの地域と比較しても高齢化がより一層進んでおりまして、この団地の高齢化率は5割、後期高齢者率も3割近くになっている。高い行政需要が発生しております。

このような事業を勘案していただきまして、後期計画事業に当市及び居住者の意向を尊重しつつ、円滑な実施に努めるとともに、1DKを抑制することなどにより、ファミリー世帯への住戸をより多く確保し、多様な世帯構成になるよう配慮していただきたい、そして、高齢化率も引き下げていただきたいというふうに考えております。

そして、団地の建て替えによりまして、北側の新青梅街道沿道には、土地の利用がまだ未定の区域が創出される予定と聞いております。この図面では空色に塗っておりますが、こちらの利活用に当たっては、ぜひ市と協議をお願いしたい。

また、上の新青梅街道に面している薄い空色の部分は、現在、東京都にお借りをして50万本のヒマワリを植えさせていただいております。今年で6年目に。去年で5年でした。また2年契約更新していただいて、あと2年間は貸していただけるということでヒマワリ畑にさせていただいております。50万本というのは、東京都で一番の本数だと思います。

次に、いろんな自治体の皆さんがお話ししております市町村総合交付金でございます。これは本市の厳しい特殊事情をご考慮いただきまして、特段のご配慮をお願いしたいというふうに考えております。

次に、これは東京都というよりも国のほうの問題にはなろうかと思っておりますけれども、保育士等の処遇改善。これまで説明いたしました鉄道がない地域特性から、保育に係る公定価格や公務員の地域手当の地域区分が両方とも3%に武蔵村山市はなっております。隣接する市と大きな差があります。武蔵村山市だけが、なぜ3%なのかというところは、ちょっと理解に苦しむところなんですけれども。よそは12%、15%。こういう状態でございます。今、保育士や職員の確保が、武蔵村山市は非常に困難な状態となっております。武蔵村山市は、おかげさまで待機児がゼロという状況でございます。これは民間保育園に

頑張っているおかげなんですけれども。ただ、保育士さえいけば、もっと子供を預かれるという状況もあるんですが、何しろ保育士や、市の職員もそうです、この3%というのがネックになっているのか、困難な状況になっている。今までも国への格差是正の要望をお願いしているとともに、新しい制度として、東京都で交付金制度の創設など、検討していただけないかなというふうに考えているところでございます。

次に、また地図がありますけれども、横田基地の部分でございます。グレーの部分が横田基地と多摩開墾。横田基地でございます。武蔵村山市はモノレールの延伸と、基地周辺の活性化に寄与すると考えておりまして、横田基地の軍民の共同使用に賛成をしております。トランプ大統領に代わった、この機を捉えて、積極的に国へ働きかけを行って、横田基地の軍民共同使用の推進も図っていただきたいなというふうに考えております。

また、横田基地に関して、国から国有提供施設等所在市町村助成交付金を受けております。本来は固定資産税相当額の100分の1.4の税率なんですけれども、相当額のまだ4割弱、約37%をいただいている状況です。これも東京都とご一緒に国に働きかけて、今までもいただいているんですが、固定資産税相当額をぜひ満額、補助いただきたいということもお話もさせていただいて、積極的に国へ一緒に、今まで以上に働きかけをしていただけたらなと思っております。

最後になりますけれども、モノレールの延伸は多摩地域にいまだに広がる鉄道不便地域を解消して、地域の活性化、地域振興に必須の大変重要な事業であると考えております。人口減少に備え、駅中心のコンパクトなまちづくりが必要と言われている中、当市には、まちの核となる駅が1つもなく、これは大きなハンディキャップであると考えております。市議会でもモノレールにつきましては全会派が賛成で、市民の悲願であります。知事の公約にも多摩格差の解消が掲げられておりますが、モノレールの延伸は多摩格差解消のシンボリックの意味を持つと思っております。実現に向けて、ぜひご尽力いただくようお願い申し上げます。私の説明にかえさせていただきます。よろしくようお願い申し上げます。

○行政部長 どうもありがとうございました。

それでは知事から、お願いいたします。

○都知事 モノレール延伸に関する熱い思いはしっかりと受けとめさせていただこうと思っております。

人口のほうは、前回の国調から比べて27年度でも増えているということ、私も選挙中に伺いましたけれども、日産自動車の跡地ですか、そこが大規模なモールのような形に

なっているなど、新住民もいるということですよ、基本的には。

○武蔵村山市長 そうですね。日産工場は今まで140ヘクタール、日産が持っていたところ、宗教法人が104ヘクタール買いました。その上に、イオンモール等が買いまして、そこが今大変盛況で、一日に、武蔵村山市民ぐらい来ちゃう日もある。ですから、要するに子育て中のパパ、ママが転入傾向にあるんだろうなど。ですから、横田基地周辺の第八小学校、第九、十小学校は校舎が足りずにプレハブを、去年、一昨年と、造っております。そんな中で、少しずつでありますけれども人口が増えてきている状況かなと思っています。ただ、保育園につきましては待機者が出ていない状況なんですね。ありがとうございます。

○都知事 それで、まずモノレールの早期延伸の熱い思いは受けとめさせていただきました。多摩地区の活力のアップに直接資するというお話でございます。整備効果の高い路線だと都としても認識しておりますので、関係者間で連携しながら検討を深めていきたいと、このように考えております。東西方向の主要な骨格幹線道路でありますし、災害時の迅速な救援救急活動を支える重要な路線になるというふうに考えております。

それから、都営村山団地の件であります、ヒマワリですか、50万本。そこも一つ、憩いといいましょうか、癒やしを支えさせていただいているのかなと思います。村山団地では、現在お住まいになっている方々の世帯構成を勘案しつつ、お話のように一人、単身というよりはファミリー世帯、その住宅の整備を進めて、子育て世帯に対する支援の拡大を図ってまいります。

それから、都営住宅の創出の用地ですけれども、都民共有の貴重な財産でございますし、また都の政策目的の実現など、地域の課題の解決に資しますように、また市のほうと協議させていただいて、適切に対処していきたいと考えております。

それから、横田基地については、深いご理解をいただいておりますことに、私としても敬意を表したいと思います。一方で、地元の声もしっかりと伺わせていただきたいと、このように思います。もちろん騒音問題などもございますでしょうけれども、そういったことも踏まえながら地元の声に耳を傾けていきたいと思っております。新政権がどういう方向になっていくのか、まだまだ見えないんですけれども、ご主張についてはしっかり受けとめさせていただきます。

それから、基地交付金の増額ということも、伺っておりますので、これについては5市1町で国に対して引き続き要望していきたいと考えております。

それから地域手当、なるほど、武蔵村山だけ3%なんだというのがよくわかります。お

隣の瑞穂と、ですね。これも国への要望になるかと思えます。安定的に保育人材が確保できて、そしてまたニューファミリーが来てという、うまく連携といいましょうか、連動されるようにしていきたい。その思いは受けとめさせていただきます。

あと、保育士さんもそうでしょうけれども、高齢化については24.8%という、そういう数字を持っておりますけれども、介護も同じことになるとは思います。これについては人事院ですよ、これは。そちらへの訴えということをさせていただきたいと思えます。局長のほうから、後にこれに関連して一言申し上げると思えます。

それから、総合交付金の配分でありますけれども、今お話のあった都営団地の規模などに配慮するというので、扶助費の増加など、財政状況が厳しい状況にあると思えますので、市の財政需要を踏まえて効果的な支援が出るように努めてまいりたいと考えております。

そのほかはまた、局長のほうから、お願いします。

○総務局長 ただいま知事からも国家公務員の地域手当支給率のお話がありましたけど、まさに凶面（「子ども・子育て支援新制度の公定価格（保育所・幼稚園等の国基準の運営費）の地域区分」）のとおり、武蔵村山、瑞穂が3%で、奥多摩が6%ということでございまして、納得性とか客観性の観点から非常に色々問題があるということは認識しておりまして、知事も申し上げましたとおり、総務省と同じ観点で、人事院の動向をよく把握して、働きかけを行っていきたいというふうに思っております。

それから、ひまわりガーデン武蔵村山についてのお話がありましたけれども、地域特性を踏まえまして市独自の地域振興事業というのは大変重要だと、非常によい事業だというふうに認識しております。一方で交付金につきましては、制度の趣旨もございまして、これからもよくお話を伺いながら検討してまいりたいと、このように考えております。

以上でございます。よろしく願いいたします。

○行政部長 市長、ほかにつけ加えられること等ありましたら、お願いいたします。

○武蔵村山市長 そうですね。温泉はもう本当に10何年前の市長が掘り当てて、多くの皆さんが来ていただいて、1カ月2万人、年間24万人来ていた時期がありましたけど、ちょっと老朽化して、また4月から温泉を休んで、管の整備とか、いろんなところをやっつけていかなければいけないなど。管がどうしても、温泉なものですから、コレステロールがたまるものですから、そこを何とか新しいものに変えていかなきゃいけないと思っております。

何といたっても武蔵村山市は、モノレールは平成4年12月24日のクリスマスイブの日
に知事から次期整備路線ということで承認いただいて、もう25年たっていて、そのまま
になっているものですから。元鈴木知事の時代なんです。ですから公室に来ていただきま
すと、鈴木知事の手書かれたものがありますので、ぜひ一度足を運んでいただいて、武蔵村
山市のすばらしさをご堪能いただけたらと思っております。よろしくお願ひ申し上げます。
○都知事 空堀川はいいんですか。

○武蔵村山市長 空堀川につきましては、ちょうど私の家の前なんです。家の前から、今
年度から、要するに29年度から整備が少しずつ始まっていただくように、やっていた
きました。少し滞っていたんですけども。

その空堀川と、あともう一つ。狭山丘陵のお話をさせていただきましたけれども、狭山
丘陵が東大和、武蔵村山市を一体とした観光施設ということで、そこを遊歩道、自転車道、
武蔵村山市にはトンネル群が5つあるんです。村山貯水池、多摩湖を掘った砂利を搬入し
た軽便鉄道が昔は通っていて、それを観光として活かすためには、東大和、武蔵村山の共
同が必要だということで、ぜひそこを一つの観光ルートにさせていただく構想もありますの
で、またどこかでそのお話がありましたら、ひとつよろしくお願ひ申し上げます。

○行政部長 それでは、そろそろお時間でございます。最後に知事から一言、お願ひいた
します。

○都知事 市長ありがとうございました。これからも魅力を生かして、また人口増へ向け
て頑張ってくださいと存じます。ありがとうございました。

○行政部長 以上をもちまして終了させていただきます。ありがとうございました。

(了)

『三鷹市』

平成29年2月15日（水）

14時32分～14時56分

○行政部長 それでは冒頭、知事からご挨拶申し上げます。

○都知事 今日は、新宿まで足を運んでいただきまして誠にありがとうございます。また、日ごろより都政運営にご協力を賜っておりますこと、改めて御礼を申し上げたく存じます。

今日は、市の課題、そしてまた、将来への展望、さらには都へのご要望など、率直なところを伺わせていただきたいと思っております。

都政の見える化ということで、ネットで中継させていただいておりますので、ご了承くださいたいと存じます。

それから、三鷹といいますと、とても文化の薫るまちとして知られておりますけれども、先日、ジブリ美術館の来場数が1,000万人を超えたということで、色々と要所、要所で魅力あふれるポイントがあるかと思えます。そういったことも含めまして、市長のほうから伺わせていただきたいと存じます。よろしくお願いいたします。

○行政部長 それでは、三鷹市長、ご発言をお願いいたします。

○三鷹市長 小池都知事、こんにちは。三鷹市長の清原慶子です。本日は、大変貴重な対話の機会をいただきまして、心から感謝を申し上げます。

三鷹市は、今年で市制施行67年目を迎えております。昭和25年、1950年11月3日に三鷹町から三鷹市になりました。現在、約18万5,000人の皆様にお住まいいただいております。

そして、何よりも、自治基本条例に基づきまして、参加と協働を基本とする市民参加と協働のまちづくりを進めております。

ライフワークバランスとダイバーシティを進めておりますので、今日は、3人の女性の部長を伴いまして、職員とご一緒に対話をさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

さて、本日は、1つ目、都知事がありがたいことに公約にいただきました多摩格差ゼロにつきまして、三鷹市の幾つかの視点からお話をさせていただければと思います。3つに絞らせていただきました。

1つ目は、東京都の政策にコミットする事業の展開と市町村総合交付金の意義について

です。具体的に、三鷹中央防災公園・元気創造プラザを事例にお話をします。お手元に資料をお配りしましたのですが、この4月1日に三鷹市役所の隣に総合スポーツセンター、子ども発達支援センター、総合保健センター、福祉センター、生涯学習センター、防災センターによる複合施設の元気創造プラザを開設いたします。この施設は、耐震性に課題のある施設を複合化いたしまして、多世代交流、多職種連携を進める、三鷹市元気創造の拠点としようと思っております、この間、市町村総合交付金も大いに活用をさせていただきました。こうした新しいビジョンにご支援をいただきましたことに感謝いたしますし、防災公園ですから、周辺には、東京都の補助も生かしまして、電線類の地中化、無電柱化も進めておりました、小池知事のビジョンを受けまして、私たちはちょっと先取りして、東京都との連携をさせていただいております。

まさに、ダイバーシティ、セーフシティ、そして、スマートシティ、この3つをこの三鷹中央防災公園・元気創造プラザが生かしております、防災、命を守る、子供から高齢者まで命を守る。そして、何よりも、スマートに生涯学習や芸術・文化の発信の拠点とするわけで、既にここに市町村総合交付金が反映されていることに感謝し、今後、管理・運営や事業の展開にも活かすことができればなと思っております。

○三鷹市企画部都市再生担当部長 4月29日に、この開館間もないこの施設で、東京2020のオリンピック・パラリンピックフラッグツアーをやらせていただきます。

特に、歓迎セレモニーの当日には、パラリンピックの正式種目であるボッチャの競技体験も行う予定でございます。小池都知事は、ボッチャの普及にも大変お力を注いでいらっしゃるのと伺っておりますので、ぜひこの日にフラッグツアーにお越しただいて、ボッチャの競技も一緒に楽しんでいただければと思っております。市民は、大歓迎だと思います。私たちも大変うれしく思います。

○三鷹市健康福祉部長 市町村総合交付金は、このほかにも待機児童解消や障害者の自立支援といったダイバーシティの取り組みや道路、橋梁、公園等の改修整備といったセーフシティの取り組みの貴重な財源として活用させていただいております。

地方交付税不交付団体の三鷹市としては、経営努力割やまちづくり振興割の拡充など、ぜひとも東京都の施策の方向性と合致する事業の推進にも活用できる市町村総合交付金の拡充をどうぞよろしく願いいたします。

○三鷹市長 続きまして、2つ目のテーマでお話しさせていただきます。これは、地元3市との信頼関係に基づく調布基地跡地における取り組みについてです。調布基地跡地に関

しましては、これまで長い歴史の中にあつて、東京都と地元の3市、すなわち調布市、府中市、三鷹市の信頼関係のもとに進められてきた経過があります。

まず、小池知事にも大変ご心配をいただいております調布飛行場についてです。一昨年の自家用機の墜落事故で、尊い命が失われました。なかなかその原因究明が進まない中で、空港の安全対策に対しまして、地元住民の不安の解消に向けた取り組みを、港湾局中心にいただいておりますし、総務局の局長をはじめ、皆様にもご心配をいただいております。ぜひ都知事にも命が失われた重みの中、お気遣いをいただければと思います。

また、実は、基地跡地における土地利用に関する事業としましては、ポジティブなことがございます。それは、地元3市が、大島、新島、神津島への定期便の重要な拠点として、都営空港化を受け入れたという歴史的経過があります。最近では、私が市長になりましてからは、三宅島の空路もご承認させていただきました。島しょの振興を深くお考えの都知事におかれましては、調布飛行場というのが、まさに島しょ振興の要だというふうに思います。したがって、これまでの経過を踏まえて、公益性を調布基地跡地には実現していただければと思います。

その中、武蔵野の森総合スポーツ施設（仮称）が間もなく完成いたします。これは、東京2020大会の競技場となることとなりましたので、何かオリンピック施設だというふうに思われているのですが、実は、地元3市との長い話し合いの中で、地元3市をはじめ、多摩地域の皆様のスポーツの拠点として整備をしていただいた経過があります。

今後、できれば地元市民の優先的な利用もお願いしたいのですが、事業については、やはり協働で企画運営していくということが、とても大事だと思うのです。これまで、味の素スタジアムを株式会社東京スタジアムが円滑に運営してきた中で、やはり地元3市の、あるいは市民の皆様との、あるいは中学生の駅伝大会の実施など、東京都も活用していただいていた経過がありますので、ぜひにと思っています。

それから、もう1点、これは、ぜひご相談しておきたいのが、重症心身障害児（者）の施設の計画が、地元3市の共同であります。なかなか重症心身障害児（者）施設というのは、民間の社会福祉法人でも、参入を躊躇されるようなところがございます。東京都のご理解をいただきまして、ぜひその実現をと、今、着々と準備を進めておりますので、知事にも、頭の片隅に入れていただければ。

もう一つ、三鷹市は、昭和48年、1973年、公共下水道を日本で初めて普及させた市なんですね。ですから、水再生センターを独自で持っています。近隣の市は、皆、東京

都の流域下水道でということなのですが、実は、この調布基地跡地に流域下水道野川水再生センターの計画がございます。ところが、皆様、流域下水道でやっていて、三鷹市だけが水再生センターを自前で持っているの、なかなか切迫感が、三鷹市だけが気が急いているような状況がないわけではないのです。ぜひ、東京都民の水再生のために、知事のリーダーシップをお願いします。

急ぎ、3つ目に移ります。3つ目は、5月に開園100周年を迎える都立井の頭恩賜公園における東京都との協働の取り組みの成果と未来です。現在、東京2020大会を控えて、スマートシティの文化・芸術プログラムとして、都立井の頭恩賜公園において、太宰治文学館（仮称）と吉村昭書斎（仮称）を太宰治生誕110年を迎える平成31年度の開館に向けまして、東京都と協働して進めております。

井の頭公園には、平成13年に開園した、知事にもご紹介いただきました、何と1月に来館者が1,000万人を突破した三鷹市立アニメーション美術館三鷹の森ジブリ美術館がございます。都立公園の中に市立の美術館ができたというのは、都立公園関係者のまさに慧眼で、今、国内外から、むしろアメリカ、ヨーロッパ、また、アジア諸国、中東の諸国からもたくさんお客さんが見えていますので、東京2020オリンピック・パラリンピック大会の中で、アニメーション美術館と世界にときめく太宰治文学館（仮称）が両立すればなと願っているところです。

○三鷹市教育部生涯学習担当部長 ジブリ作品は、日本を代表するアニメーション文化であり、市長も申し上げましたように、国内外から大変多くの来訪者がいるというところに特徴がございます。

また、太宰治も、時代を超えて、そして、海外でも幅広く読者を持つ作家であり、開館後には、国内外から多くの人々が訪れることになると思います。

吉村昭は、長く井の頭公園に隣接する自宅で暮らして、多くの作品をそこで残していらっしやいます。妻で芥川賞作家でもいらっしやる津村節子さん、三鷹市名誉市民ですけれども、津村節子さんから書斎や資料などの寄贈を受けることになりました。

都民の財産である都立井の頭恩賜公園では、5月1日に開園100周年記念式典、そして、フラッグツアーの最終日の5月5日には、三鷹市DAY（仮称）を予定しております。

○三鷹市長 4月29日のフラッグツアーの開始から5月5日の終わりまでが、ちょうど都立井の頭恩賜公園100年と重なるので、都知事の日程は、お忙しいと思いますが、ご紹介をさせていただきました。

以上、東京都と協働する三鷹市の取り組みについて、3点に絞ってお話しさせていただきました。

実は、ここでもう一つだけ、都知事に、私、直接お話ししたいことがあるんですが、それは、平成30年度、2018年度というのが、国民健康保険の都道府県単位化が進み、介護保険及び後期高齢者の保険料の改定のタイミングで、しかも、障害者総合支援法の改正に伴う地域生活支援の拡充ですとか、言うまでもなく、子ども・子育て支援の待機児解消のまさに取り組みなど、来年というのは、本当に社会保障に対して、きめの細かいサービスを考えるとともに、財源保障が大変な時期を迎えます。

実は、福祉保健局の皆様、これまで三鷹市をはじめ、区市町村の連携で、包括補助というのを本当に拡充してきてくださいました。総務局の行政部をはじめとする皆様と私たちの対話、そして福祉保健局の対話、都市再生では、都市整備局に建設局、もう各局が都知事が本当に願っていらっしゃるとおりに現場主義で、私たちのところにも訪ねていただいて、必要なものを、市町村総合交付金だけではなくて、福祉の包括補助でもつけてくださっていました。

それでも、待機児がいるのが現状ですが、私は、ぜひ平成30年度問題、2018年度問題を共有させていただいて、東京都の財政の厳しい中、適切な私たち都のあり方で、多摩格差ゼロを進める中で、23区と多摩の市町村、あるいは島しょの町村との福祉の面におけるギャップを大きくしない取り組みというのをぜひ目指していただければありがたいと思います。

子ども・子育て会議にも、ご多用の中、本当に8月に初対面のときに、ご無理でも出席いただけたらと申し上げたら、叶えていただいた都知事でいらっしゃいます。ぜひ命を大切に思う思いで、このような取り組みをご一緒に進めることができたらと思います。市町村の実情と自主性を踏まえた、市町村総合交付金や福祉の包括補助など、ぜひきめ細かいご対応をお願いして、私からの現状報告と未来に向けてのビジョンと東京都の皆さんとの協働・連携への感謝と希望をまとめさせていただきます。

どうもありがとうございます。

○行政部長 どうもありがとうございました。

それでは、知事からお願いいたします。

○都知事 ありがとうございます。ご報告、そして、ご要望、承ったところでございます。

もうとっくにセーフシティ、スマートシティ、ダイバーシティを先取りしてどんどん実

現しておられる、その慧眼と、それから実行力に敬意を表したいと思います。

また、これだけ女性の方がずらっと並ばれたのは、三鷹市ですけど、ちなみに、三鷹市の中での市役所の女性の管理職比率というのは、どれぐらいですか。

○三鷹市長 自慢したいところですが、まだ、1割を超えて2割になんなんとする程度で、係長職以上、係長職は結構いますし、課長補佐もいるのですが、課長、部長となりますと、やはりまだまだこれからです。一生懸命頑張って活躍してもらいます。

○都知事 頑張っていたきたいと思います。

それでは、幾つかご要望もございましたので、都としての考え方などを申し述べたいと思います。

まず、こちらの中央防災公園・元気創造プラザでありますけれども、市町村総合交付金を活用していただいて、すばらしい施設ができるということを大変楽しみにいたしております。ちょうどこのご要望がついた局長のほうからもお答えさせていただこうと思います。

それで、そして、本当に3つのシティを強く進められておられるということでございますが、今後ともメリハリをつけて、しっかりと対応をさせていただきたいと考えております。

それから、幾つか、ちょっと前後するかもしれませんが、やはり三鷹というと、先ほどの太宰治文学館、そして、吉村昭の書斎の整備ということでございますけれども、早期の設置に向けて引き続き調整を進めさせていただきたいと思います。

それから、武蔵野の森の総合スポーツ施設でございますが、3市が調整をされまして、そして、整備中ということでございます。多摩地域のスポーツ振興の拠点として活用されることを期待をするわけでございますし、また、管理運営の検討に当たりましては、地域の貢献についても考慮してまいりたいと考えております。整備をしているというところ、整備中でございます。

それから、下水道関係、水再生センターでありますけれども、これについては、情報交換をそれぞれ関係市と行っているところでございますので、引き続き協議を進めさせていただくことで、いい方法を見つけていければと、このように思います。

それから、3市協働で重度の心身障害児（者）の施設をというお話でございます。これは、基本的には、その調布の基地の跡地利用計画の一環ということでございますので、その趣旨に基づいて引き続き御市と連携を、調整をさせていただくということでもあります。

実際に、重度の心身障害児（者）の施設というのは、本当に厳しい状況であるというふ

うに思いますので、こうやって多摩地域に施設ができることというのは、それによって親御さん方も、随分期待をされているんだろうと、このように思います。

それから、同じく調布飛行場、おっしゃるように今は、その多摩地域の市の市長の皆様方と、それから、島しょ地域の町長さん、村長さんと、この会話をさせていただいているんですが、まさしく調布飛行場が島しょと地域の発展の要であるということは、おっしゃるとおりかと思います。ということで、都営の空港を離着陸した航空機が、実際に今回、事故が起こって、そして、まだまだその分析といましようか、その結果がまだ出てはいないところではありますけれども、しかしながら、調布飛行場の安全対策の強化ということについては、これは、誰もが願っていることだと思しますので、地元市とも協議をしながら、その点は、丁寧に進めていきたいと考えております。

そのほか、交付金関係は、局長のほうからお答えさせていただきます。

○総務局長 それでは、市町村総合交付金の制度に関するところでございます。

まず、お話のように、各市町村の主体的な行財政改革の取り組みを反映する、いわゆる経営努力割、これは大変重要だと考えております。また、いわゆる振興支援割というその地域の特性を踏まえたまちづくりを効果的に支援する視点、これもお話のとおり大変重要だと思っております。また、一方で財政力にも配慮してほしいという、こういうお声もあるのも事実でございます。

今後、この制度の運用に当たりましては、時代の変化に適切に対応したバランスのよい制度とするために、色々なお話を伺いながら、適時適切に見直しを行ってまいりたいと思っております。

どうぞよろしくお願いいたします。

○行政部長 清原市長、どうぞ。

○三鷹市長 小池知事におかれましては、私たちが問題提起させていただいて、気になっている部分について、引き続きの対話と、また、具体的に支援をしていただく、あるいは推進のために思いを持っていただいていることを、今日伺いまして、大変心強く思います。

そして、ともすると、私たち、どうしても市町村総合交付金のことだけの要望になりがちなんですが、先ほどお話ししました福祉の包括補助ですとか、実は、東京都では、そのほかにも私たちの地域の実情に合わせてご配慮いただいている補助金などがあります。それらも含めて、私たちがより主体性と自立性を持ちつつ、しかし、市民である私たちの対象は、東京都民でもあるということですから、ぜひ東京都の政策と私たちの政策が、より

良く連携しながら、本当に東京都が願っていらっしゃる施策の目的を実現する現場が市町村であるというふうに自負しておりますので、引き続き、きめの細かい施策をしていただければ、私たちが、それをアンテナを張って、そして、実情に合わせて活用していくことで、都民満足度、市民満足度を上げていきたいというふうに思います。

なお、局長におかれましては、もちろん財政力ということを最優先にお考えながらも、自治体経営の努力や振興の課題に対しても、きめ細かくご対応いただけるということで、今後とも、ぜひ現場の状況を部長さんをはじめ、お伝えいただいていると思いますので、ぜひそれを適切に反映していただければ心強いです。

どうもありがとうございます。

○行政部長 では、そろそろお時間でございます。

最後に、知事から一言、お願いいたします。

○都知事 今日は、ありがとうございました。市長がおっしゃいましたように、これから、様々な制度が変更されるということで、ますます地域の自治体の実力というのが試される時代が来ているかと思います。

また、前もってわかっていることは、きちんと準備をしていくということも大切だと思いますので、おっしゃるように、今後とも、市のほうと、それから都のほうと、しっかり連携を取りながら、賢い支出と、それから、都民、市民の満足度を高めていくという方向性を共有しながら進めていきたいと思います。

今後とも、どうぞよろしくお願いいたします。

○行政部長 それでは、以上で終了でございます。

(了)

『日野市』

平成29年2月15日（水）

14時57分～15時15分

○行政部長 それでは、冒頭、知事から一言ご挨拶申し上げます。

○都知事 お忙しいところ、本日は新宿までご足労おかけいたしまして、恐縮でございます。また、日ごろより、都政運営にご協力いただいていることを改めて御礼申し上げたいと存じます。

今日は、市長から直接市の現状、そして、課題と将来の展望、そして、都へのご要望などを伺わせていただきたいと、このように思います。

都政の見える化を図っておりますので、ネットで中継させていただいていることをご了解いただきたいと存じます。

日野市は、大変な自然に恵まれる一方で、工業を支えていると、産業を支えているという2面をお持ちだと、このように思います。メリーちゃん、ハリーちゃん対決みたいになっちゃいましたけど。市長のほうは、どうぞ忌憚ないご意見を伺わせていただければと存じます。

○行政部長 それでは、大坪市長、ご発言をお願いいたします。

○日野市長 日野市長の大坪冬彦でございます。本日は、このような席を設けていただき、また日野市のお話をさせていただく機会をいただきまして、誠にありがとうございます。また、1月17日には、七生緑小学校の合唱団をお招きいただきまして、その歌声を聞いていただきまして、本当にありがとうございます。文字どおり、日本一の歌声をご堪能いただいたと思います。

さて、日野市のお話ということで、まず簡単に、市の概要ということでございます。面積が27.55平方キロ、人口が18万3,000人ほどでございます。多摩地区で第8位ということになると思います。先ほど知事からもありましたように、ベッドタウンであるとともに、工業、製造業のまちとして発展をしてきてまいりました。

あと、特徴としては、非常に公共交通の利便性の良さということで、東西に京王線とそれから中央線、そして南北にモノレールということで、3路線12の駅があつて、都心へのアクセスが非常にいいまちでございます。高幡不動駅から新宿まで約27分、それから、JRの日野駅から新宿まで最短で30分ということでございます。

その一方で、自然が豊かなまちでありまして、多摩川、浅川、それから、118キロにわたる用水路が流れていて、水の都ということでございます。また、多摩丘陵の自然にも恵まれております。

そんな中で、平成27年度国勢調査によって、人口増加数が多摩地域第1位でありました。6,300人、5年間で増えたと。そんなまちでございます。

その一方で、抱える課題ということでございます。多摩地域に共通の課題ということで、人口減少、少子高齢化、日野市は平成37年ぐらいから人口減少に転じるかなという、そんな予想も出ております。その一方で社会保障費が増加して、財政難に陥りつつあります。待機児童も、昨年4月では183人ということになっております。子供の貧困の問題もありますし、それから、空き家の問題、基盤産業の縮小、公共施設の老朽化、そこには書いてありませんが、緑地農地の減少という、多摩地域共通の課題が日野市にもございます。

その上で、日野市の独特の課題ということで、先ほど申し上げました、工業のまちでありましたが、相次ぐ大規模工場の移転がございました。ちょっと前にはファナック、そして東芝日野工場、そして雪印メグミルク、そして2020年には日野自動車の工場が移転する計画もございます。こういう2020年、オリンピックの年ということで、今、部分的に移転を始めていて、最終的に2020年ということになっております。もちろん本社と研究所は残りますが、やはり工場の移転は、手痛いダメージがあります。

そんな状況ですので、それにかわる新しい成長産業をつくっていかねばならないという、非常に大きなテーマを日野市は持っております。

あと、もう一つ、多摩丘陵における空き家の増加と高齢化というふうに書きました。三多摩全体で高齢化は進んでいるんですが、日野市は、全体として人口は増えておりますけれども、浅川を挟んで北部と南部、南部のほうに多摩丘陵があつて、南部の地域というのは非常に高齢化が進んでいて、空き家の増加も顕著であるという地域差を抱えている、そんな自治体でございます。

それで、じゃあ、そういう自治体としてこれからどうしていこうかというお話でございます。右側の生活課題産業化ということでフリップをつくらせていただきました。先ほども触れさせていただきましたけれど、この多摩地域の、多分どの市長との意見交換でも挙がっている、高齢化であるとか待機児の問題、空き家の発生など、東京近郊のベッドタウンが抱えるさまざまな課題として、どこの自治体も共有すべきものであります。それで、これらの課題に対し、一つの自治体の取り組みでは、なかなか施策の効果も限定的になる

のかなというふうに考えております。

今、日野市は、可燃ごみ処理施設、可燃ごみの処理を小金井市、国分寺市と共同で進めておりますが、それ以外にも、行政の業務の効率化、合理化、また、新たな基盤産業の創出に関しても、複数の自治体が連携して施策を進めていく必要があるのかなというふうに考えております。

一方で、高齢化をはじめとする諸課題というのは、日本が課題先進国であります。その意味で、その解決というのは、世界からも注目されている研究開発型の企業だとか、大学、研究機関の集積がある多摩地域においては、地域が抱えるもろもろの問題を解決することは、ビジネスチャンスの創出にもなりますし、イノベーションの実現にもつながる可能性を秘めていると思っております。

多摩地域は、420万という人口、これは静岡県に匹敵しますが、それよりも多くて、自治体同士が連携して、このスケールメリットを生かしていくべきではないかと考えております。そういう考え方に基づいて、日野市としては、このイノベーションの創出に関して、昨年から生活課題の産業化というテーマを掲げて、域内外の企業、大学と連携・交流を図りつつ、医療や介護、データを活用した健康増進や防災をテーマとした官民連携のプロジェクトを立ち上げているところでございます。

ここで、生活課題の産業化という言葉を使いました。これは、今までは、行政のみの守備範囲であった健康や防災、こういう生活課題を企業や大学、そして、さまざまな主体との連携によって解決を図ることです。とりわけ企業にとっては、従来のCSR、そして、社会貢献よりも一歩進んで、ビジネスとして生活課題にかかわり、新たな製品、サービスを生み出す。そんなことを目指しております。

それで、このプロジェクトを通じて、企業が行政や住民との対話ができる関係、新たな製品、サービスの実施をできる環境づくりを目指して、今、協議会を結成して、動き始めております。この協議会には、多摩地域の複数の自治体にも声をかけさせていただいております。今、オブザーバーとして八王子市、町田市、多摩市、稲城市、立川市、昭島市、青梅市、清瀬市、羽村市の方々に参加をさせていただいているところでございます。

しかしながら、なかなか1自治体に取り組むテーマとして難しいところもありまして、ほかの自治体との主体的な連携関係をつくるには、困難も感じながら、この協議会をやっているのも事実でございます。

多摩地域というのは、区部とは異なる特性があります。各自治体の個性も本当にさまざま

まであります。連携することが強みにつながっていくのは間違いございません。多様性こそイノベーションを実現する資源であって、豊かな自然環境とあわせて、東京都のダイバーシティを実現する要素になるのではないかと考えているところでございます。

昨年12月に東京都が作成した都民ファーストでつくる「新しい東京」～2020年に向けた実行プラン～がでございます。それで、そこに、多摩の広域連携拠点と重ねて、(仮称)多摩イノベーション交流ゾーンが位置づけられております。ありがとうございます。そういう意味でも、イノベーションの交流ゾーンの実現に向けて、東京都とも連携していきたいし、また、東京都が主導していただくような、そんな形の役割もお願いしたいと考えております。

それで、これからのお話ということでございます。今までの行政、特に、私ども市と市町村と東京都の関係において、一つの自治体の取り組みに対して、都の担当部署から支援を行っていただいております。もちろんこの従来の手法を否定するわけではございません。大変助かっております。

これからは、多摩地域の共通課題に対して、お金を出していただくのはもちろんでございますけれども、連携体制の構築のコーディネートを東京都が行っていただくことをお願いしたいなというふうに思っております。

もちろん、自治体側も自分たちの課題としてしっかり取り組む必要があります。多摩地域の課題の解決というのが、都民ファーストの実現につながるためには、今まで以上に主体的な取り組みをお願いしたいなと思っております。言いかえれば、多摩地域の課題解決を東京都が行うために、自治体を巻き込んでいただきたい。そんな取り組みをお願いしたいなと思っております。

また、共通の課題の多く、産業、福祉、子育てなどは、当然特定の行政分野だけではなくて、複数の行政分野にまたがることも特徴であります。当然、そうなる我々市町村も、部署横断的に分野横断的に取り組んでいきますけれども、東京都のほうも、部署間の連携を密にさせていただいて、ともに課題解決に向けて取り組んでいただくことをお願いしたいと思っております。そのためには、将来像としては、連携自治体と都が政策横断的な連携を深めること、そんな姿が望ましいかなと思っております。

都知事がそのような将来像の実現に向けたリーダーシップを発揮していただくことをぜひともお願いしたいと思っております。こんなことを考えて、今、日野市は、これからの行政に取り組んでいくということでございます。

以上でございます。よろしくお願いいたします。

○行政部長 どうもありがとうございました。

それでは、知事からお願いいたします。

○都知事 ご要望も含めて、お話を伺わせていただきました。

その前に、メリーちゃんとハリーくんのそれは、一体どこがお作りになったのですか。

○日野市副市長 市民の方がぜひということで、手づくりで。ちょっと顔が黒いんで、メリーちゃんが、すみません。

○都知事 ありがとうございます。かわいいのをありがとうございます。

最初に、この市長のほうから、いわゆる多摩の問題というのは、どの市であれ、町であれ、多摩地域のみならず、日本全体と言ってもいいかもしれませんが、共通の課題であるというご指摘は、そのとおりだと思います。

そして、その2枚目のところに、その多摩の各自治体との取り組みという形、中西副知事は、その意味でメイヤーとして、コンシェルジュと言ったら悪いけれども、まず、一括してさまざまなご要望を受けとめて、それを因数分解するなり、掛け算にするなり、そこは、それぞれの市から、自治体から挙がってきている個々の問題をまとめながら、多摩地域の発展ということを念頭に置きながら、今、都として対応しているかと思います。

それをもっと明確に、今、ご提言があったことをしっかり踏まえて、認識は共有していきたいと思っております。

それから、具体的な例として、地域の課題への関与について、例えば、可燃ごみの処理広域化でございますけれども、市町村をまたがっている課題に対しては、よく連携させていただいて、まさしく都民サービスの向上の観点、都民ファーストの観点から積極的に都も関与してまいりたいと考えております。

それから、あと、別途お聞きしている中には、地域の発展のためにということで、木密解消のための補助制度なども先にお伺いした中に入っております。28年度から支援をしているところでございますけれども、これからも技術的、財政的な支援をさせていただく考えであります。

それから、今、お話を伺っていると、随分企業が移転をするということで、これも産業が変わってきている中において、厳しい局面かとは思いますが。ただ、一方でそこに、じゃあ、今度、新しい何を呼び込むかということは、これは、もう東京全体でも考えていかなければいけませんし、日本そのものが、今、そういう産業が大きく変わる中で、大企業が

今、瀕死の状況にあるなど、典型的な例だと思いますけど、これからどうやってそのシーズを花開かせるかというのは、中長期的にも考えていくテーマだと思っております。

だからこそ、先ほどもありましたように、一つ一つの目の前の課題だけでなく、全体の多摩が共有して持っている課題を解決するとともに、さらに、その後どうしますかというところで、共通の方向性を持って進めていければと思っております。

財政的な支援だけではなくて、企業などに関する情報提供も都からさらにさせていただくお考えでございますし、また、新たに企業などへ相談対応を行う体制を整備しまして、産業集積が維持できるように、これからも協力をさせていただきたいと思っております。

それから、交付金関係からについては、局長のほうから一言。

○総務局長 ただいま、財政難に傾きつつあるというお話がございましたけれども、総合交付金の算定のあり方についてでございます。別途市ごとの体力差を一層着目して、算定をしてほしいというようなご要望を伺っております。

総合交付金の算定に当たりましては、これまでも市町村のご要望を取り入れて、効果的で柔軟な支援の充実を図ってまいってきたつもりでございますが、今後とも、交付金の趣旨を踏まえつつ、時代の変化に適切に、的確に対応した制度とするよう、今後とも十分話し合いをしながら、適時、適切に見直しを検討してまいりたいと思っております。よろしく願いいたします。

○行政部長 大坪市長、何かつけ加えられることがございましたら。

○日野市長 ありがとうございます。企業の撤退、そして、新しい産業をつくっていくということでご支援をいただけるというありがたいお言葉をいただきました。

今、地方創生の時代で、情報として他県の場合、東京都や日野市にある優良な企業の本社を引き抜くために、県と市区町村が一丸となってやっているなんていう情報もあります。それに負けないようにするためには、ぜひ東京都の支援が必要でありますし、また、特に産業クラスターということになりますと、日野と八王子と相模原まで視野に入れたところで考えていかなければならないと思っておりますし、そういう広域的なことをやっていくためには、どうしても一自治体が追いかけてもなかなか難しいことがございますので、やはりそこには、都としての指導といますか、リーダーシップがないとなかなか難しい。壁を感じつつやっておりますので、ぜひその支援をいただきたいなと思っております。

また、木密を出していただきましたけど、日野は比較的土地区画整理事業をやっておりますので、区画整理事業の網をかけると木密は解消できます。ただ、かかっていないとこ

ろが、ずっとそのままです。やはり区部のほうが木密が全然面積が違いますのでわかりますけども、26市、三多摩のほうでも木密がありますので、そこに対する補助制度は、現在、今のところはありませんので、ぜひつくっていただければ、ありがたいと思います。もちろんオリンピックがありますので、先行するのは、区でしょうけども、三多摩のほうも、要望としては、多分伝わっていると思いますけども、そこもぜひお願いしたいなというふうに思っております。

それで、財政の話を出しました。それで、総合交付金の話もあります。やはりどうしても、区部と市部では、財政体力がまるで違います。ご存じのとおり、区部は、経常収支比率が80%弱ですかね。日野市は91~92%を超えております。なかなか厳しい状況でありまして、日野市は、交付税をいただいている交付団体でございまして、四苦八苦している。それで、臨時財政対策債をもらいながら、都の交付金をいただきながら、何とかやりくりしているというところがございますので、その場合に、やはり財政体力を考えていただいた補助制度についても、工夫していただければありがたいというのが、今日のお話には入っていませんでしたけども、ぜひこの機会にお願いしたいことでございますので、よろしく願いいたします。

○行政部長 ありがとうございます。

では、最後に知事から一言お願いします。

○都知事 今日は、ありがとうございます。

また、七生緑小学校の皆さんにも、先生にもぜひよろしくお伝えいただいて、5年連続を目指していただきたいと思います。

今日は、市長、ありがとうございます。

○行政部長 以上をもちまして終了させていただきます。お忙しいところ、ありがとうございました。

『小平市』

平成29年2月15日（水）

15時17分～15時47分

○行政部長 それでは、最初に知事から一言ご挨拶申し上げます。

○都知事 今日は、お忙しいところ、新宿までお出まじいただきまして、ありがとうございます。また、都政運営へのご協力に改めて感謝を申し上げます。

今日は、小平の現在抱えておられる問題、課題、それから将来展望、さらには都へのご要望、それぞれ伺わせていただきたいということで、この場を設けております。

なお、都政の見える化を進めておりますので、やりとりについては、ネット中継をさせていただきますので、ご了承いただきたいと思ひます。

それでは、どうぞ忌憚なく、ご意見をよろしくお願ひいたします。

○行政部長 それでは、市長、お願ひいたします。

○小平市長 何か24年前の試験を受けているようです。細川護熙さんが真ん中におられて、確か右か左かどちらかにおられたと思ひますが、そんな気分でございます。どうぞよろしくお願ひします。

まず、このような場を設けていただきまして、本当にありがとうございます。本当に感謝申し上げます。若干市の状況について説明をさせていただきますというふうに思っております。

小平市は、平成27年の合計特殊出生率で1.46となり、23区、26市を合わせた中では、2番目の高さとなっております。これは、東京都で2番目の数値になるわけであります。また、最新の国勢調査によりますと、念願でありました19万人を突破をいたしまして、19万5人、本当にわずかでございますが、19万5人となり、初めて19万人を超えたことになります。これは、小平市が都市の特性である利便性の高さと、ふるさとのイメージにあった緑に包まれた環境にあり、都会と田舎の両方の良さをあわせ持つ、いわゆるプチ田舎、ちゃんと登録も取って、ほかの市は使えませんので、プチ田舎でございます。若干内部でも批判がありますけれども、プチ田舎なまちづくりを魅力的に捉えられ、選ばれている結果であると思ひております。

小平市は、事前にいろいろ資料をお持ちかと思ひますが、山や大きな川、河川がなく、

災害に強いことに加えて、小平市という名前のおり、全体が真っ平でございます。山や川がなくて、災害に強いことに加えて、自転車で移動がしやすい、名前の由来のおり、平坦な地形であります。

さらに、市内には7つの駅がありまして、市境の駅を含めると、10の駅があり、また、コミュニティバスやコミュニティタクシーなどの導入も進めたことで、交通の利便性が増え、子育てなどに適していることが評価をされて、1.46、あるいは19万人を突破したという結果につながっているのではないかと考えております。

しかしながら、小平市の人口は、近い将来、減少に転じることは、もう必須の状況であり、市政運営におきまして人口減少社会を見据えた取り組みがますます重要になっております。一般的に、人口減少はマイナスのイメージにとられがちでございますが、私は、この発想を転換して、都市部と違った緑と住みやすさを大切にするまちづくりを進める好機と捉え、各分野における各施策を展開する必要があると考えております。

高度経済成長期から右肩上がりの時代に象徴される量の充足ですね。数さえつけばいいというこの量の充足から、今後は、すぐれた地域資源を生かし、この地域資源というのは、当然、高齢化をすれば、小平市はベッドタウンですから、昼の人口と夜の人口は相当違うわけですね。サラリーマンが多いですから、それが、今度、高齢化に向かっていけば、大半の人たちが日常、地域の中におられるわけですね。今、高齢化率が22%、23%ですから、こういった人たちをどのようにその地域の活性化の中に生かしていくか。ただ、お年寄りとして扱うのではなくて、地域資源として扱って、色々な市民参加や郷土事業などに参加してもらおう。そういう質の重視へと取り組みを展開をしていきたいと考えております。

それから、市が取り組んでいる課題と都への要望事項、余り聞きたくもないと思いますが、けれども、私も、要求・要望型より担い手型がいいということをやっていますので、言いたくはないんですけど用意していますので。小平市の課題として捉えて、重点的に取り組んでいる施策といたしましては、まず、現在も増加している年少人口です。年少人口への対応を含め、子育て支援や保育サービスの充実への取り組みでございます。これは、小池知事が力を入れてくださいまして、本当に助かっております。感謝申し上げます。

平らな地形のため、移動がしやすいなど、子育てをしやすい当市の特性を生かして、子育てに優しいまちとして、認可保育所や学童クラブの、これは、保育園をつくっていくと、当然小学校に上がれば、保育園に入られてる子供というのは、どうしても小学校に上がる

と、昔は、鍵っ子と言いましたけど、要するに親がまだ、働いておられて帰ってくるのが遅いわけです。そうすると、受け皿として、小学校に学童クラブが必要なんですね。こういったあわせて保育園と学童クラブの増設に取り組んでおります。この4月には、認可保育園7園、これは、画期的だと思うんですけども、小平市内で7園。もう一つは、18人という小規模なんですけども、この1園を合わせて8園つくります。定数も定員も437人増やします。学童クラブも2つ新設いたします。

一方でこうした施設について、特に、ここからは要望でございますが、つくるときは、国や東京都はかなり金を出してくれるのですよ。ほとんど市は出さなくていいのですけど、その後のランニングコストがかかるのですよ。聞いたら、1園、大体7,000万円から1億円ぐらいかかるんですよ。ですから、今度、うちは、8園つくるわけですから、低い額で見ると、7,000万円とすると、5億円から6億円、次年度から運営経費がかかってまいります。ですから、つくるときの助成や補助というのは大変ありがたいんですけど、その後の負担が、各市の財政負担を相当圧迫している要因になっておりますので、ぜひここは、運営経費につきましても、増加をしていただきたいというふうに思っております。

小平市の場合は、まだ恵まれておりまして、市が20平方キロなんですよ。東西で10キロで南北で4キロ、ちょうど円盤型なんです。それで、全体の地形が平らなのもですから、保育園をつくる用地がまだあるんですよ。1割がまだ農地ですから。ですから、区部や武蔵野や調布などで反対運動があると聞いておりますが、うちのほうではありません。それだけ、まだ空間があるということでもあるんで、そういう意味では、我々は条件的には恵まれているんですけど、今言ったように、つくることはできるんで、その後の運営コストが非常に負担になってくるということでもありますので、ぜひそこは、ご検討いただければというふうに思っております。そうですね。ぜひご支援をいただければというふうに考えております。

続きまして、質の高いまちづくりを進めるための項目に移らせていただきますけども、小平市は、西武鉄道、西武新宿線と、あとは多摩の中でも珍しく南北線の武蔵野線というのがあるんですけども、ほぼ、西武新宿線が主要な小平市の東西を走っている都心に人を運ぶ線路としては西武新宿線があるんですけども、この西武拝島線の小川駅という、小池知事、私、一緒に演説をした駅でございます。東口、ブリヂストンの工場があるところですけども、この小川駅西口や小平駅の北口地区の再開発事業や都市計画道路及び都市

計画公園の整備事業なども今は進めております。こうした視点から、西武鉄道の多分沿線市の市長さんも同じようなことを言われたかと思いますが、連続立体交差ですね。どうしても、何か中央線とか小田急とか京王のほうに目が行きがちですけれども、多摩北部は、西武池袋線と西武新宿線なんですけれども、池袋線は、今、連続立体も少しやっていますけれども、新宿線は、全く手つかず、加えて、都心乗り入れがないのです。西武新宿駅でとまってしまっているんですよね。ですから、どうしてもその利便性に欠けるということで、連続立体とあわせて、都心乗り入れにつきましても、ぜひ力を入れていただければというふうに思っております。

これが、多摩の中でも、我々は、多摩内格差と言っているんですよ。多摩格差というのはもちろんありますけれども、多摩の中でも、多摩北部は、多分東村山市長さんもおっしゃったかと思いますが、非常に都市計画の進捗率が低いんですよね。うちでさえも50%ぐらいかな。東村山は30%ぐらいですかね。

○特別秘書 18%くらい。

○小平市長 18%ですか。だから、ものすごく遅れているんですよ。多摩の中でもどうしても、南部に力がやや入って、北部に光が当たっていないというところがあります。これが、色々多摩の中でのそれぞれの住み良さとか、快適さみたいなどの差が出ているのではないかというふうに思っております。

一方で、先ほど言いました、プチ田舎でございますが、プチ田舎でこれを表現するように、これは、市の魅力、小平市の魅力であります。水や緑を身近に感じていただけるように取り組んでいるわけで、知事、ごらんください。これが、大体小平市なんですよね。これが、野火止用水で、松平伊豆守信綱という人がつくったんですけれども、これが野火止用水ですね。川越まで走っているんですよね。これが多摩川上水、これは、もうご存じのように1650数年につくった、江戸が大都市になって、飲み水の供給をするために、羽村の堰からこの新宿も通っていますけれども、ここが、大体小平市なんですよ。ですから、用水路に囲まれている。当然、ここは、不毛の地でありましたので、ここは、その後に開拓をしているんですよね。短冊形と言って、この辺に青梅街道が走っています。これを東西にこういうふうに短冊形の都市開発を、今で言う土地区画整理です。当然、そういう区画整理事業にするには、水を引き込まないといけませんので、この辺からどんどん用水路を引き込んで、このたった20平方キロの中に、50キロ近くの用水路が走っているんですよ。

ですから、そういうこの田舎の様子を残しながら、さっき申し上げましたが、駅、これが、武蔵野線が走っている。地下なんですよ。多摩にも地下鉄があるんですよ。この真ん中辺に新小平駅というのがありまして、すぐこっちに国分寺、西国分寺につながるんですけど、あとは、西武新宿線が、こういうふうには走っている。ですから、田舎の要素も持ちながら、しかし、都市の利便性。ちょうど都庁から20キロぐらいなんですよ。ですから、非常に距離的にも、時間的にも都心に近く。

しかし、今、申し上げたように、非常に緑が多いということで、プチ田舎ということ売りしているわけでありましてけれども、そして、これをグリーンロードと名前をつけて、これは、偶然なんですけど、私は、マラソンをやるんでよくわかるんですけども、1周すると21キロなんですよ。2周すると42.195キロ。ちょうどフルマラソンになるんですよ。これが、ちょうど。だから、今、歩く何か色々なテレビ番組行事がありますけれども、市もできるだけこれを使ってもらって、歩くようには努力はしているところであります。

そして、先ほど申し上げましたように、この市全体の面積の1割が、まだ農地なんですよ。ですから、都市農業が非常に盛んなんですよ。意外と知られていないんですけど、小平市は、学校給食、小学校・中学校を入れて、30%地場産、地元の野菜を小中学校の食材として使っているんですよ。これは、都内で多分一番農業率が高いんだと思いますけれども。ですから、都市の農業にも力を入れているところであります。

こういったものをいわば、何百年、何千年の歴史的な建築物を観光資源とかという、そういうものではなくて、むしろこのプチ田舎を売りにして、観光振興を図っていかうということで、今やっているところであります。そのことが、次の世代に快適に過ごしていただける条件を整備をしていくということになるのだろうというように思っております。

緑の確保や都市農地の保全。これには、さまざまな課題があります。税制上の課題も多くありますので、東京都と連携しながら、国に対しても働きかけをしていきたいと思っています。

きのう、国のほうで加速化交付金というのがあって、それを活用しながら、都市農地をどう保全をしていくのかということで、大学の先生を4人お招きをして、きのう、フリーディスカッションをしたんですね。たまたま農協の集会室でやったんですけども、やっぱり最後に行き着くところは、農業者の意識改革というものもありますけれども、一方で、やっぱり税制の問題が非常に大きいんですね。相続税をただにしろという話ではなくて、都

市の農地をいわば生産、私は、生まれが新潟なんですけど、新潟のような農地とは違った位置づけで、例えば、この農地を都市の施設として認めていって、税制上の優遇措置を図るといったような、これは、国の法律の改正が必要なんだそうです。都市計画法の用途の問題なんだそうですけども、きのう、その話をして、最終的に国に働きかけをしていただきたい。あるいは、やっ払いこうということで終わったわけでありませう。

また、緊急の課題といたしまして、公共施設のマネジメントの取り組みが挙げられます。小中学校でございます。これも、人口急増期につくった小中学校が、更新時期が近づいております。他の公共施設の老朽化も進んでおりますので、この公共施設の更新に当たって、特に小中学校の建て替えが大きな課題となります。将来の人口減少を見据えながら、学校とコミュニティ施設等の複合化など、長期的な視点に立って、計画的な建て替えを検討してまいりたいというふうに思っております。

それから、小平市の特徴としまして、市の公共施設の中に都営住宅が非常に多いんですよ。この都営住宅の建て替えの折に、市民文化会館という1,700~1,800人ぐらい入る文化施設があるんです。これは都営住宅と併設しているんですね。小平の駅前にあるんですけども、市民文化会館のような合築したものや、あるいは、地域の公民館、図書館などとして1階の部分を活用させていただいているケースも大変多くあります。公共施設マネジメントの推進に当たっては、こうした施設の更新や、あるいは所有地や都の施設の活用など、さまざまに連携をしていく必要があると考えております。

最後になりますが、市が取り組むべきさまざまな課題に対応するには、やはり財源の確保が必要でございます。市といたしましても、行財政改革の取り組みは、一生懸命進めております。自主財源の確保にも一生懸命取り組んでおりますが、都におかれましても、ここで上乗せで財源の確保をしていただきましたことにつきましては、感謝を申し上げますが、総合交付金のさらなる拡充と、活用にあたっては柔軟性の向上を図っていただきたく、ご支援をお願い申し上げる次第でございます。

私からは、以上でございます。すみません、長々と。

○行政部長 どうもありがとうございました。

それでは、知事から、まず、お願いいたします。

○都知事 プチ田舎の件については、伺わせていただきました。また、そういったことが、子育て環境がいいということで頑張っておられる。また、今回、8園ですか。一気に増やされる学童クラブについても、積極的に取り組んでおられるということでもあります。

子育て支援の施策の充実については、都独自の交付金を今回も大幅につけたところでございます。子育て支援の実施主体は市でいらっしゃいますので、地域の実情に応じた施策をしっかりと展開できるように、支援してまいりたいと思います。

それから、幾つかのご要望がありました。ちょっと順不同でございますけれども、鉄道の連続立体交差、西武新宿線ということですが、沿線のまちづくりの検討の状況であるとか、それから、鉄道と交差する道路の整備計画の具体化などを踏まえまして、適切に対応していくというのが、今の都の立ち位置でございます。ぜひその周りの環境づくりなどをお進めいただければと思います。

それから、多摩地区は、インフラ整備も必要でしょうし、また、既に内々に伺っている道路の関係であるとか、それから、マイナンバーであるとか、新地方公会計制度への移行に対する支援であるとか、そういったハードのみならず、ソフト面での支援についてご要望を伺っておりますので、それぞれの局で適切に対応させていただくことになろうかと思っております。

それから、自主財源の確保についての国への要請でありますけれども、これについては、財政制度の構築に向けて、引き続き国へと提案をしております。

先ほどの農地の話も、まさしく国の税制に直接かかわっておりますので、これについては、緑有比率を下げないというためには、やはり何といたっても都市農業は、すなわち相続税の話になってきますので、これは、国への要望を引き続きしていきたいと思っております。と同時に、あちこち虫食い状態になってくるので、どうやって農地を集約するかなど、色々新たな試みも行うところでもあります。色々また、参考にさせていただければと思います。

それから、あと、公共施設のマネジメント推進での財政的な支援をという話でございました。これは、局長のほうからお願いします。

○総務局長 総合交付金の拡充、活用の柔軟性の向上、それから、今、知事からもお話がございました。関連するものと思っておりますけれども、公共施設の更新需要。また、別途、財政の体力差に応じた総合交付金の算定というお話を伺っております。

これらについてでございますが、これまでも市町村のご要望も取り入れて、効果的で柔軟な支援の充実を図ってきたつもりでございますけれども、今後とも、限られた財源を生かしつつ、時代の変化や地域の特性を踏まえた的確な制度とするために、十分なお話し合をしながら、適時・適切な見直しを行ってまいりたいと考えておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

○行政部長 そろそろお時間でございますが、何か最後に、ありますか。

○小平市長 せっかく知事に会うので、めったにないことなので。

○都知事 これまではこういうことはなかった。

○小平市長 なかったですね。私が副会長になったのは、最近ですけれども、余り前の人の悪口を言っちゃいけないけど、本当に形式的でしたね。猪瀬さんなんかひどかったね。本当、ポケットに手を入れるなよと思いましたよね。ポケットに手を入れてくるんだからね。そうだね。ああ、違うか、こっちはわかるよね。ひどかったよね。いやいや、極端な人だけ言いますと、非常に形式的、威圧的、高圧的。嫌でしたね、本当に。

私は、多摩・島しょの皆さんと会っていただいて、本当にうれしく思っているのは、多摩の多分皆さん、共通しているのは、23区のようなにぎわいを求めようなんて誰も思っていないんですよ。多摩の魅力というのは、やっぱり23区にない魅力を持っている。

私は、だから、よく議員さんに質問を受けると、何でもっと活気のあるまちをつくらないとか、にぎわいのあるまちをつくらないのかって。どうしても意識的に我々なんか、多摩は、23区に対してコンプレックスみたいなどころがあるんですね。昔は、都下と言ったんですね。野田さん、わかるよね。都下って、都の下と書くんですよ。それで、我々は、昔の我々の世代の親の世代は、東京に行ってくるというんですよ。同じ東京なのにな。

だから、どこかで我々の中でコンプレックスがあって、そういうところがあるんですけど、私は、違うと思うんだよ。私は、逆に、小平で生まれ育っているわけではなくて、途中から住みついた人間として、魅力を持って住んだわけですよ。だって、都心で本当に24時間働きますから、それこそ働き詰めでくたくたになって帰って、多摩に入った瞬間、空気が濃いですよ。酸素の量が多いですよ。それで、ぐっと体の力が抜けるんですよ。癒やされるんですよ。こういうまちというのは、そういうところの要素ってなきゃだめなんです。24時間明かりがついていちゃだめなんです。やっぱりちゃんと時間になったら消灯する空間が必要だし、あるいは癒やされる樹木が、紅葉があったり、そういう人間として何というか、人間性を保つような、そういった空間が必要です。

私は、だから、東京の中では、多摩という位置づけは、そういう位置づけだと思う。ですから、そういう意味では、プチ田舎に象徴するようにですね、もちろん東京ですから、東京に住まわれる人たちというのは、利便性というのは、大変な魅力を感じてこられるわけですよ。しかし、一方で多摩に住む人って、一方でやっぱり癒やされる空間も求めて、住んでおられる人が多いわけですよ。

ですから、私は、別に23区のようなあのにぎやかなものを求めるものではなく、むしろ多摩が持っている魅力をもっと高品質なものにして、質の高いものにしていくということが必要だと。そのためには、やっぱり高架化にしたり、あるいは都市計画道路をちゃんと整備をして、いわゆる通過車両が、結局は都市計画道路が整備されてないから、みんな住宅地の中を、抜け道になって入っちゃうんですよ。そうすると子供が道路で遊んでいてひかれてしまって、おじいちゃん、おばあちゃんが事故に遭ったりする。ちゃんと通過道路を、いわゆる計画道路はしっかりと整備をすることによって生活道路が非常にうまく機能するんですね。それが多摩は、どうしても都市計画がおくれている分だけ、そういう、まちが雑然としているんですね。

ですから、そういう多摩の自然をしっかりと残しながら、計画的な、この道路整備と、あるいは鉄道の立体交差化、そこで、踏切で1時間も開かなかつたりすれば、周辺の人たちから見れば、もううるさくてしょうがないのと、排気ガスがあると。こういうことはやっぱり、ぜひ解消を。

23区を目指そうとは思っていません。多摩は多摩の魅力があります。ただ、そういった都市整備、都市基盤の整備だけはしっかりやることによって、逆に、多摩の魅力をさらに倍加・倍増できるのではないかというふうに思っております。ぜひその面に力を注いでいただければというふうに私は思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

○行政部長 それでは、最後に、知事、お願いします。

○都知事 ありがとうございます。

○行政部長 それでは、以上をもちまして、終了させていただきます。お忙しいところ、どうもありがとうございました。

(了)